

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成22年4月1日  
(第67期) 至 平成23年3月31日

日新商事株式会社

(E02845)

# 目次

頁

表紙

第一部	企業情報	1
第1	企業の概況	1
1	主要な経営指標等の推移	1
2	沿革	3
3	事業の内容	5
4	関係会社の状況	7
5	従業員の状況	8
第2	事業の状況	9
1	業績等の概要	9
2	生産、受注及び販売の状況	10
3	対処すべき課題	12
4	事業等のリスク	12
5	経営上の重要な契約等	14
6	研究開発活動	14
7	財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	14
第3	設備の状況	16
1	設備投資等の概要	16
2	主要な設備の状況	16
3	設備の新設、除却等の計画	19
第4	提出会社の状況	20
1	株式等の状況	20
2	自己株式の取得等の状況	23
3	配当政策	24
4	株価の推移	24
5	役員の状況	25
6	コーポレート・ガバナンスの状況等	27
第5	経理の状況	33
1	連結財務諸表等	34
2	財務諸表等	77
第6	提出会社の株式事務の概要	104
第7	提出会社の参考情報	105
1	提出会社の親会社等の情報	105
2	その他の参考情報	105
第二部	提出会社の保証会社等の情報	106

監査報告書

内部統制報告書

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月30日
【事業年度】	第67期（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）
【会社名】	日新商事株式会社
【英訳名】	NISSIN SHOJI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 筒井 博昭
【本店の所在の場所】	東京都港区芝浦一丁目14番5号
【電話番号】	(03)3457-6253
【事務連絡者氏名】	常務取締役経理部長 本間 一郎
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝浦一丁目14番5号
【電話番号】	(03)3457-6253
【事務連絡者氏名】	常務取締役経理部長 本間 一郎
【縦覧に供する場所】	日新商事株式会社 横浜支店 （神奈川県横浜市神奈川区金港町5番地32） 日新商事株式会社 大阪支店 （大阪府堺市堺区新在家町東一丁目1番28号） 日新商事株式会社 名古屋支店 （愛知県名古屋市千種区内山三丁目3番9号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

(1) 最近5連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高 (千円)	81,193,774	80,787,429	73,213,940	58,421,860	63,748,597
経常利益 (千円)	581,473	702,266	658,507	381,886	398,511
当期純利益 (千円)	304,502	484,641	272,721	117,029	149,868
包括利益 (千円)	—	—	—	—	127,000
純資産額 (千円)	17,226,681	16,484,507	15,734,459	15,882,418	15,952,937
総資産額 (千円)	28,077,339	26,564,422	22,388,015	22,827,050	23,691,293
1株当たり純資産額 (円)	2,373.52	2,271.32	2,339.12	2,361.11	2,371.60
1株当たり当期純利益 (円)	41.65	66.78	38.60	17.40	22.29
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	41.51	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	61.4	62.0	70.3	69.6	67.3
自己資本利益率 (%)	1.8	2.9	1.7	0.7	0.9
株価収益率 (倍)	22.6	12.0	19.8	45.4	33.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△863,359	46,143	2,542,661	△113,350	257,209
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△329,646	52,257	△992,428	△810,231	△1,242,199
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△705,116	217,849	△147,021	△348,241	191,805
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,798,330	2,114,119	3,496,505	2,236,302	1,442,916
従業員数 (ほか、平均臨時従業員数) (人)	435 (204)	418 (184)	412 (170)	401 (169)	401 (154)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第64期以降の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、調整計算の結果、1株当たり当期純利益が希薄化しないため記載しておりません。

3 第67期より「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用しております。

## (2) 提出会社の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期	
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	
売上高 (千円)	73,652,661	73,908,747	67,837,424	55,152,025	60,147,802	
経常利益 (千円)	587,921	660,096	659,581	373,646	322,605	
当期純利益 (千円)	293,935	391,716	262,767	166,190	74,658	
資本金 (千円)	3,624,000	3,624,000	3,624,000	3,624,000	3,624,000	
発行済株式総数 (株)	7,600,000	7,600,000	7,600,000	7,600,000	7,600,000	
純資産額 (千円)	16,474,232	15,643,211	14,908,506	15,092,580	15,010,013	
総資産額 (千円)	26,522,798	24,890,819	21,159,049	21,652,617	22,319,319	
1株当たり純資産額 (円)	2,269.85	2,155.40	2,216.33	2,243.70	2,231.42	
1株当たり配当額 (内1株当たり中間 配当額)	(円) (円)	16.00 (8.00)	18.00 (8.00)	18.00 (9.00)	20.00 (9.00)	18.00 (9.00)
1株当たり当期純利益 (円)	40.21	53.97	37.19	24.71	11.10	
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益 (円)	40.07	—	—	—	—	
自己資本比率 (%)	62.1	62.9	70.5	69.7	67.3	
自己資本利益率 (%)	1.8	2.5	1.8	1.1	0.5	
株価収益率 (倍)	23.4	14.9	20.5	32.0	66.9	
配当性向 (%)	39.8	33.4	48.4	81.0	162.2	
従業員数 (ほか、平均臨時従業 員数)	(人)	343 (161)	348 (157)	339 (144)	350 (161)	353 (146)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第64期以降の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、調整計算の結果、1株当たり当期純利益が希薄化しないため記載しておりません。

3 第66期1株当たり配当額20.00円には、記念配当2.00円が含まれております。

## 2【沿革】

当社は昭和22年8月、横浜起業株式会社として資本金195千円、目的を油槽タンク、油槽艇（はしけ）、本船タンカー清掃及び付帯する事業として設立いたしました。

昭和22年9月、商号を東洋起業株式会社に変更、更に同年12月、株式会社日新商会と変更いたしました。会社の目的も陶磁器、美術工芸品の販売に変更しております。

以上が商業登記簿謄本に記載されておりますが、当社は商号を日新商事株式会社とし、現在の石油製品販売が主事業目的となった昭和25年2月を会社設立と考えております。

年月	事項
昭和25年2月	商号を日新商事株式会社に変更。 事業の目的を一般石油製品及び副製品の販売に変更。
昭和30年2月	液化瓦斯部を設け、液化石油ガス並びにその附属品の販売を開始。
昭和32年8月	石油化学製品の販売を開始。
昭和32年9月	大阪府岸和田市の弓場商事株式会社の全株式を取得。当社子会社とする。
昭和33年4月	大阪出張所（昭和31年7月開設）を大阪支店に昇格。
昭和36年4月	名古屋出張所（昭和34年7月開設）を名古屋支店に昇格。
昭和37年6月	川崎市川崎区に川崎石油瓦斯充填所を開設。
昭和42年10月	子会社弓場商事株式会社を吸収合併。
昭和46年8月	横浜市中区の日米興業株式会社石油部門の営業権を譲受。
昭和47年4月	本社組織を変更し、東京支店を設置。群馬出張所（昭和35年6月開設）、千葉出張所（昭和43年9月開設）を営業所に昇格。
昭和48年4月	仙台営業所、埼玉営業所を開設。
昭和48年8月	名古屋市千種区の株式会社イザワの販売施設と営業権を譲受。9月より当社子会社チクサ石油株式会社を設立して営業開始。
昭和50年4月	秋田県男鹿市の株式会社伊藤久商店の販売施設と営業権を譲受。 当社子会社秋田日石株式会社を設立。
昭和51年4月	SS運営機械化対応としてPOSシステムの導入。
昭和52年4月	仙台営業所を仙台支店に昇格。
昭和52年6月	当社子会社日新瓦斯株式会社を設立。7月より当社石油瓦斯部を分離して営業開始。
昭和53年3月	東京都千代田区の和光通商株式会社の全株式を取得。当社子会社とする。
昭和54年1月	東京都港区の恵谷商事株式会社化成品部門の営業権を譲受。
昭和54年4月	子会社チクサ石油株式会社を吸収合併。
昭和55年1月	当社子会社日新化成品株式会社を設立。4月より当社物産部を分離して営業開始。
昭和59年4月	群馬営業所を群馬支店に昇格。
昭和59年11月	東京都中央区の協進石油株式会社の全株式を取得。当社子会社とする。
昭和62年12月	子会社和光通商株式会社を協進石油株式会社へ吸収合併。
平成2年4月	三重県鈴鹿市に鈴鹿出張所を開設。
平成5年3月	横浜市神奈川区に自社ビル「ベイフロント横浜」を竣工。不動産賃貸業に進出。
平成6年4月	子会社日新化成品株式会社を吸収合併。 本社組織を変更し、化成品部（現 産業資材部）を設置。
平成6年6月	東京都目黒区の杉浦石油株式会社の販売施設、営業権、賃貸マンションを譲受。
平成7年11月	群馬県富岡市の上毛石油株式会社の営業権を譲受。 当社子会社上毛日石株式会社を設立。
平成8年3月	東京証券取引所市場第二部に上場。
平成8年6月	東京支店を変更し、東京第一支店、東京第二支店を設置。群馬支店を関東支店に名称変更。
平成8年8月	山形県米沢市の株式会社桑嶋商事の営業権を譲受。 当社子会社桑嶋日石株式会社を設立。
平成8年12月	名古屋市中区の株式会社恒川商店の営業権を譲受。 当社子会社中京日石株式会社を設立。

年月	事項
平成9年6月 平成9年7月	<p>本社組織を変更し、開発部を設置。関東支店を群馬支店に名称変更。</p> <p>本店所在地を東京都千代田区より東京都港区に移転。</p> <p>当社子会社NISSIN SHOJI SINGAPORE PTE. LTD. を設立。</p> <p>当社子会社株式会社ホッツ（現 日新レジン株式会社）を設立。</p>
平成9年12月	当社子会社テンポを設立。
平成10年12月	当社子会社日新サプライズ株式会社を設立。
平成11年1月	クラーク化学工業株式会社の株式の過半数を取得。当社子会社とする。
平成11年3月	川崎市中原区に飲食店（「KFCインレット小杉店」）、整備工場、セルフ式SSからなる複合店舗の営業を開始。
平成11年5月	本店所在地を東京都港区三田から東京都港区芝浦に移転。
平成11年11月	子会社日新サプライズ株式会社を吸収合併。
平成12年3月	当社創立50周年記念事業として東京都大田区のSS跡地に学生専用マンション「ミレニアム北嶺」を竣工。
平成12年11月	東京都港区にて「赤坂新鮨 本店」の営業を開始。
平成13年2月	当社子会社NISTRAD (M) SDN. BHD. をマレーシアに設立。
平成14年3月	横浜市南区の社宅跡地に賃貸マンション「サウスイング上大岡」を竣工。
平成15年3月	東京都千代田区にて「タリーズコーヒー」の営業を開始。
平成16年1月	東亜燃料工業株式会社の発行済株式の50%を取得。
平成16年3月	「赤坂新鮨 本店」全4店舗を閉鎖、すし事業からの撤退。
平成17年3月	当社子会社クラーク化学工業株式会社を清算。
平成18年3月	当社単元株式数を1,000株から100株に引き下げ。
平成18年3月	当社子会社秋田日新株式会社を清算。
平成19年1月	当社子会社上毛日新株式会社を清算。
平成19年4月	LPG事業再構築のため、東亜燃料工業株式会社の株式を全て譲渡。
平成20年12月	当社子会社東北日新株式会社を清算。
平成21年3月	当社子会社関東日新株式会社を清算。
平成21年9月	当社子会社中京日新株式会社を清算。
平成22年3月	当社子会社NISSIN SHOJI SINGAPORE PTE. LTD. を清算。

### 3 【事業の内容】

当社グループは、日新商事株式会社（当社）と子会社4社及び関連会社1社で構成されております。事業内容は、主にJ X日鉱日石エネルギー株式会社より石油製品の供給を受け、石油関連製品の製造、販売、卸売等を行う石油関連事業、フランチャイズ加盟による店舗運営を行う外食事業、また当社グループ所有の不動産を賃貸して行う不動産事業であります。

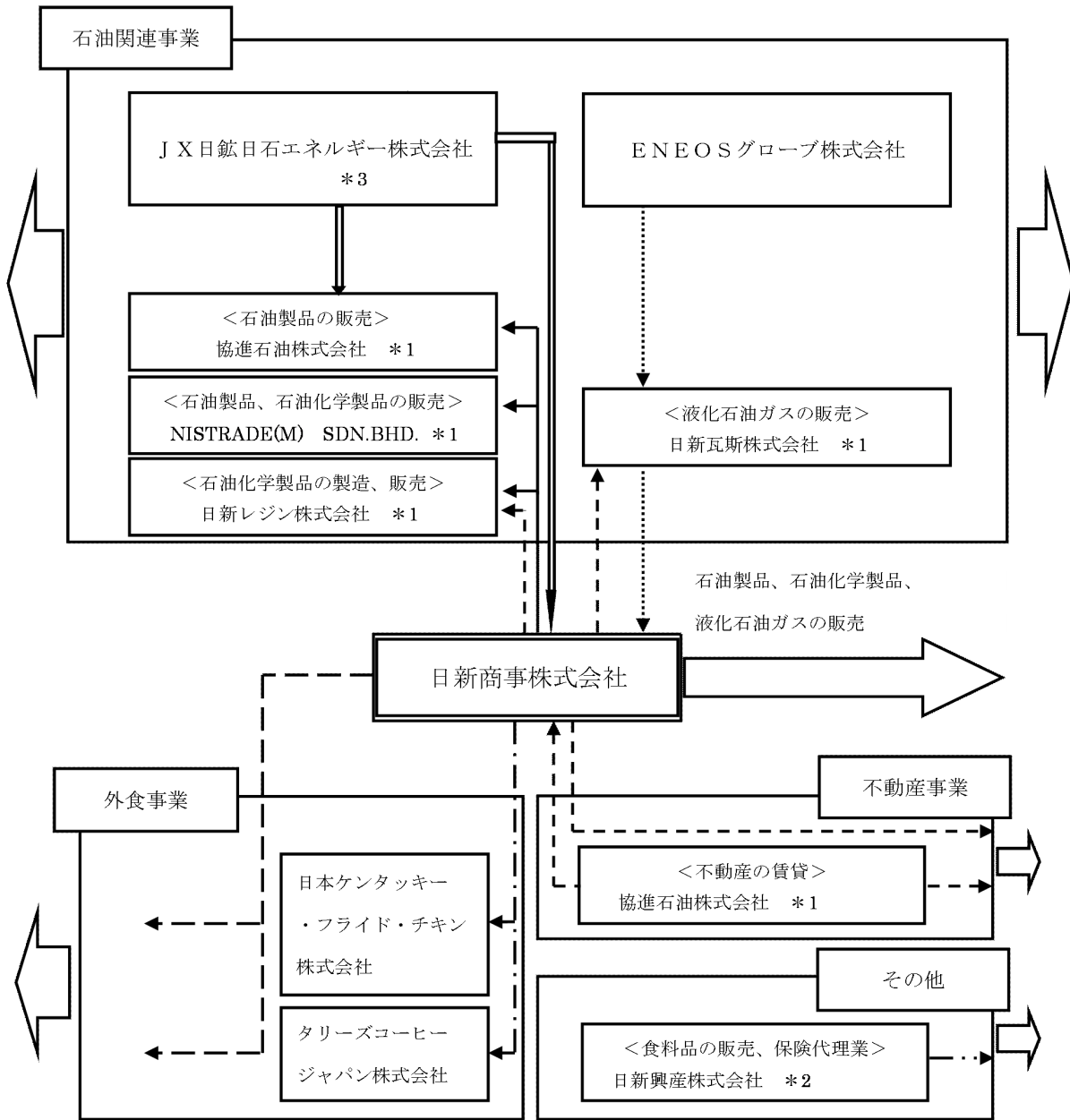
当社、子会社及び関連会社の事業内容は次のとおりであります。

なお、次の4事業は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

事業	区分	会社名	事業内容
石油関連事業	石油製品の販売	当 社	需要家、系列販売店（小売店）への販売及び直営SSの運営
		協進石油株式会社	需要家への販売及び直営SSの運営
		NISTRAD (M) SDN. BHD.	需要家への販売
	石油化学製品の製造、販売	当 社	需要家及び同業者への販売
		日新レジン株式会社	各種樹脂の製造及び需要家への販売
		NISTRAD (M) SDN. BHD.	需要家への販売
液化石油ガスの販売	当 社	系列販売店（小売店）への販売	
	日新瓦斯株式会社	需要家、系列販売店（小売店）への販売	
外食事業	ケンタッキーフライドチキン店の運営	当 社	日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社のフランチャイズに加盟し、店舗運営
	タリーズコーヒー店の運営	当 社	タリーズコーヒージャパン株式会社のフランチャイズに加盟し、店舗運営
不動産事業	不動産の賃貸	当 社	オフィスビル、店舗、マンション等不動産賃貸事業の運営
		協進石油株式会社	店舗等不動産賃貸事業の運営
その他	食料品の販売、保険の代理業	日新興産株式会社	食料品の販売及び損害保険契約の代理業



当社グループの事業系統図及び関係略図は次のとおりであります。



(注)

====	石油製品の仕入	.....	フランチャイズの加盟
————	石油製品、石油化学製品 及び液化石油ガスの卸売	-----	タリーズコーヒー ケンタッキーフライドチキン店の運営
.....	液化石油ガスの仕入	- · - · - ·	食料品の販売、保険代理業
- · - · - ·	不動産の賃貸	←	得意先及び消費者に対する販売

\*1 連結子会社であります。  
 \*2 関係会社で持分法適用会社であります。  
 \*3 その他の関係会社の子会社であります。

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 日新瓦斯株式会社	東京都港区	30,000	石油関連事業	100.0	液化石油ガスを販売しております。 役員の兼任 2名
協進石油株式会社	東京都中央区	50,000	石油関連事業	100.0	当社より仕入れた石油製品を販売しております。 役員の兼任 3名
日新レジン株式会社	横浜市戸塚区	30,000	石油関連事業	100.0	当社より仕入れた石油化学製品を加工し販売しております。 役員の兼任 3名
NISTRAD (M) SDN. BHD.	マレーシア	万リングット 130	石油関連事業	100.0	当社より仕入れた石油製品を販売しております。 役員の兼任 1名
(持分法適用関連会社) 日新興産株式会社	横浜市中区	30,000	その他	40.2	役員の兼務 1名
(その他の関係会社) JXホールディングス株式会社 (注2、3)	東京都千代田区	100,000,000	石油関連事業	被所有 16.9	当社が仕入れる石油製品を精製販売する子会社の経営管理を行っております。 役員の兼務 1名

(注) 1 特定子会社に該当するものではありません。

2 JXホールディングス株式会社の当社株式の所有割合は16.9%ですが、影響力基準によりその他の関係会社として取り扱っております。

3 有価証券報告書の提出会社であります。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメント	従業員数 (人)
石油関連事業	354 [104]
外食事業	19 [50]
不動産事業	1 [0]
全社	27 [0]
合計	401 [154]

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。臨時従業員は [ ] 内に年間の平均雇用人員を外数で記載しております。  
 2 臨時従業員は、1回当たりの勤務時間が2時間から12時間程度まで多岐にわたりますので、1人1日8時間（1ヶ月240時間）換算で算出しております。  
 3 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数 (人)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与 (千円)
353 [146]	36歳6ヶ月	13.4年	5,166

セグメント	従業員数 (人)
石油関連事業	306 [96]
外食事業	19 [50]
不動産事業	1 [0]
全社	27 [0]
合計	353 [146]

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。臨時従業員は [ ] 内に年間の平均雇用人員を外数で記載しております。  
 2 臨時従業員は、1回当たりの勤務時間が2時間から12時間程度まで多岐にわたりますので、1人1日8時間（1ヶ月240時間）換算で算出しております。  
 3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 4 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、新興国向け輸出の拡大や政府の各種景気刺激策の効果などにより、持ち直しの兆しが見られたものの、長引く円高や雇用情勢への不安など非常に厳しい経済情勢で推移いたしました。さらに東日本大震災により電力供給不足や物流網の寸断など、社会基盤に大きな影響を及ぼしました。

石油製品販売業界においては、海外での需要拡大や中東での政情不安を背景とした原油価格上昇に伴い石油製品価格が大幅に上昇いたしました。

このような状況下、当連結会計年度の当社グループ売上高は、石油製品価格が上昇したことなどにより、63,748,597千円、前期比9.1%の増収、営業利益は241,366千円、前期比17.6%の増益、経常利益は398,511千円、前期比4.4%の増益となりました。また、資産除去債務過年度影響額として34,419千円、減損損失として32,394千円、投資有価証券評価損を34,068千円計上したものの、当期純利益は149,868千円、前期比28.1%の増益となりました。

セグメント別及び部門別の状況は次のとおりであります。

#### (石油関連事業)

##### 直営部門

直営部門につきましては、カーケア商品の収益力拡充を目的として、カーコーティングや車検の販売強化を図りました。また、大阪府堺市、神奈川県横浜市にあるSS（サービスステーション）で認証整備工場の認証を取得するなど、作業収益の強化を実施いたしました。売上高につきましては、石油製品価格が前期と比較して上昇したことなどにより、21,625,438千円、前期比5.1%の増収となりました。なお、今後収益改善の見込みがないSSを2SS閉鎖し、新設SSを1SS開店したことにより、当社グループ直営SS数は56SSとなりました。

##### 卸部門

卸部門につきましては、販売店向け研修会を通じて販売力の強化を支援いたしました。石油製品価格が前期と比較して上昇したことや、既存販売店セルフSSでの燃料油販売が好調だったことなどにより、売上高は14,568,794千円、前期比12.6%の増収となりました。なお、販売店SS数は、設備の老朽化などにより、5SS減少し、99SSとなりました。

##### 直需部門

直需部門につきましては、環境配慮型製品や太陽光発電システムの販売に注力いたしました。燃料油販売においては、積極的に営業活動を展開し、物流業向け軽油の販売数量が増加いたしました。売上高につきましては、前期と比較し、石油製品価格が上昇したことなどにより、19,916,664千円、前期比16.8%の増収となりました。

##### 産業資材部門

産業資材部門につきましては、石油化学製品販売において、景気回復基調のなか製造業の生産活動が持ち直したことや、新規顧客の開拓を積極的に推進したことなどにより、樹脂原料の販売が順調に推移いたしました。しかしながら、ペットボトル飲料販売において、他社との競争が激化したことなどにより、売上高は4,481,890千円、前期比9.4%の減収となりました。

##### その他部門

その他部門は液化石油ガス関係において、仕切価格に即応した販売活動を展開するとともに、当社販売店に積極的な営業活動を展開いたしました。また前期と比較して、石油製品価格が上昇したことなどもあり、売上高は1,864,405千円、前期比13.8%の増収となりました。

#### (外食事業)

タリーズコーヒー店につきましては、収益増加を目的とした新商品の販売キャンペーンを実施したものの、消費者の節約志向などにより、厳しい販売状況で推移いたしました。また、ケンタッキーフライドチキン店では、店舗での接客オペレーションの向上を図りました。

なお、前期に出店した店舗収益が寄与したことなどもあり、外食事業の売上高は782,407千円、前期比3.1%の増収となりました。

#### (不動産事業)

不動産事業につきましては、平成22年10月に更なる収益基盤強化のため、東京都世田谷区に物件を取得いたしました。しかしながら、既存賃貸物件の建替えなどにより、売上高は508,996千円、前期比0.3%の増収にとどまりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、営業活動によるキャッシュ・フロー及び財務活動によるキャッシュ・フローにおいて資金が増加したものの、投資活動によるキャッシュ・フローにおいて資金が減少したために、前連結会計年度末に比べ793,385千円減少し、1,442,916千円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローでは、257,209千円の資金の増加となりました。増加の主なものは税金等調整前当期純利益288,865千円、減価償却費の計上288,879千円、仕入債務の増加額571,747千円であり、減少の主なものは売上債権の増加額721,536千円、法人税等の支払額193,968千円であります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローでは、1,242,199千円の資金の減少となりました。これは有形固定資産の取得による支出1,208,960千円などにより資金が減少したことによるものです。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローでは、191,805千円の資金の増加となりました。これはおもに社債の償還による支出140,000千円、借入金の返済による支出220,000千円、配当金の支払額134,533千円などにより資金が減少したものの、社債の発行による収入700,000千円により資金が増加したことによるものです。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

セグメント	事業部門	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	
		金額（千円）	前連結会計年度比（%）
石油関連事業	産業資材	290,550	19.8

- (注) 1 金額は、製造原価によっております。  
2 日新レジン株式会社が化成品の生産を行っております。  
3 上記金額には消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

受注生産は行っておりません。

## (3) 仕入実績

セグメント	事業部門	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	
		金額 (千円)	前連結会計年度比 (%)
石油関連事業	直営	18,067,892	6.8
	卸	14,128,814	12.9
	直需	19,321,599	18.7
	産業資材	3,882,535	△14.3
	その他	1,610,699	17.0
	小計	57,011,540	10.4
外食事業		257,130	4.7
不動産事業		—	—
合計		57,268,671	10.4

- (注) 1 上記金額には軽油引取税が含まれております。  
2 上記金額には消費税等は含まれておりません。

## (4) 販売実績

セグメント	事業部門	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	
		金額 (千円)	前連結会計年度比 (%)
石油関連事業	直営	21,625,438	5.1
	卸	14,568,794	12.6
	直需	19,916,664	16.8
	産業資材	4,481,890	△9.4
	その他	1,864,405	13.8
	小計	62,457,193	9.3
外食事業		782,407	3.1
不動産事業		508,996	0.3
合計		63,748,597	9.1

- (注) 1 上記金額には軽油引取税が含まれております。  
2 上記金額には消費税等は含まれておりません。  
3 セグメント間の取引については相殺消去しております。

## (5) 主要な販売先

該当事項はありません。

### 3 【対処すべき課題】

#### ① 石油販売事業の強化

直営部門においては、既存SSの収益力向上を図るとともに、新規SSの開設、同業他社の営業権獲得などにより、競争力のあるSSを取得いたします。また、個別にSSの将来性を見極めたうえ、必要に応じて閉鎖も検討し、より効率的な直営SS網を構築いたします。

#### ② 省エネルギー及び新エネルギー関連製品の展開

石油を含むエネルギーを取り巻く環境は大きく変化しております。特に地球温暖化対策においては、CO<sub>2</sub>削減が有効的なため、省エネルギー及び新エネルギー関連製品の販売を展開してまいります。

#### ③ 外食事業と不動産事業の充実

国内の石油製品需要の減少が予想されるため、石油関連事業以外の外食事業及び不動産事業を強化してまいります。外食事業につきましては、店舗ごとの収益性を向上させるとともに、市場環境を見極め、新規出店を実施しながら、新たな事業展開を模索いたします。不動産事業につきましては、安定的な収益源として、賃貸事業に特化した事業形態を維持し、収益の拡充を図ってまいります。

#### ④ コーポレートガバナンスの強化

当社グループは内部統制システムを構築するとともに、コンプライアンス委員会を設立し、コンプライアンス体制を確立しております。またリスクを想定した各種規程を整備しリスクマネジメントを実施してまいります。

### 4 【事業等のリスク】

以下において、当社グループの経営成績、株価及び財政状態などに影響を及ぼす可能性のあるリスクを記載しております。なお、当社はこれらのリスクが発生する可能性を認識し、発生回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。当社株式への投資判断は、本項及び本書中の本項以外の記載内容もあわせて慎重に検討した上で判断する必要があります。また、記載したリスクは当社株式への投資に関するリスクをすべて網羅するものではありませんのでご注意ください。なお文中における将来に関する事項は有価証券報告書提出日(平成23年6月30日)現在において当社グループが判断したものです。

#### (原油価格動向)

産油国の動向、国際情勢の変化により原油価格が急激に上昇し、当社グループが仕入価格上昇に対応した販売ができなかった場合、または原油価格急落に伴い、高値で推移していた石油製品市況が急激に悪化し、仕切価格の値下がりを上回るペースで市況価格が下落した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (製品の供給不安)

当社グループは、J X日鉱日石エネルギー株式会社と特約販売契約を締結しております。この契約に基づき、当社グループが販売している石油製品の大半を同社から仕入れております。しかしながら、J X日鉱日石エネルギー株式会社の経営戦略に変更が発生し、これに伴い特約販売契約に変更が生じた場合や国際情勢などの変化により、元売から当社グループに製品が安定的に供給されなかった場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (気候的要因)

石油製品の中でも灯油、A重油など暖房関連油種の需要は冬期の平均気温に大きく影響を受けます。また電力用重油も夏期、冬期ともに平均気温に大きく影響されます。一般的に平均気温が夏期に低く、冬期が高いと需要は減退いたします。

#### (特定事業(石油製品販売)への依存)

産業用、民生用のエネルギー源につきましては、環境問題などの観点から石油製品の依存度が低くなりつつあり、燃料電池、太陽光発電、風力発電などの新エネルギーも徐々に普及すると予想されます。また、電気自動車は近い将来環境配慮性能などの面から化石燃料自動車に代わって普及すると予想されます。当社グループでは、新エネルギー製品の販売及び電気自動車普及に対応するSSの役割も検証しておりますが、税制優遇、技術の進歩などにより新エネルギー製品及び電気自動車の普及が想定以上に加速した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(法規制について)

当社グループは石油製品を販売するに当たり、ガソリンなど危険物を取扱うため「消防法」及び「揮発油等の品質の確保等に関する法律」、また、産業廃棄物の処理に関しては「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けております。また、「消防法」ではSSに「危険物取扱者（乙種第四類）」の有資格者を営業時間中1名以上常駐させることが義務付けられております。しかしながら、これらの法規制へ適切な対応ができなかった場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(石油製品等の漏洩による土壌汚染、地下水汚染について)

当社グループは、SSの新規出店の際には二重殻使用の地下貯蔵タンクを採用するほか、配管を含む設備の点検を定期的に行うなど、漏洩防止に努めております。しかしながら、地下貯蔵タンクの老朽化や配管の亀裂、破損などによって、地下に石油製品が漏洩した場合、汚染の除去や拡散防止等の対策費用や住民に対する損害賠償費用が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(情報、システム管理に関するリスク)

当社グループは、各小売店舗を中心に個人情報を含む様々な情報を保有しており管理しております。その中でも個人情報に関しましては、漏洩事故などが起きないように規程の整備、指示、指導を行っております。しかしながら、万一情報が不正に漏洩、紛失などした場合、社会的信用が失墜し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループが運用している情報システムが自然災害などにより、システム障害を引き起こした場合、あるいはコンピュータウイルスなどにより情報システムを大きく破壊、改ざんなどされた場合には、業務遂行に影響を及ぼす可能性があります。

(食の安全について)

当社グループは、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社、タリーズコーヒージャパン株式会社とフランチャイズ契約を締結し、飲食物の販売をしております。当社グループでは、食中毒の未然防止、商品の品質管理を徹底して行っておりますが、今後内部要因、外部要因問わず、食に対する不安感が生じた場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(不動産価値の下落について)

当社グループは、不動産の賃貸事業などに必要な不動産を保有しております。このため不動産市況が低迷した場合、当社グループの収益状況が悪影響を受ける場合があります。また、賃貸事業などに必要な不動産に限らず、保有不動産の地価が大幅に下落した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。



## 5 【経営上の重要な契約等】

石油製品等に関する特約販売契約について

当社は、主要株主でありますJXホールディングス株式会社の子会社であるJX日鉱日石エネルギー株式会社と下記の内容の特約販売契約を締結しております。

契約内容：JX日鉱日石エネルギー株式会社

の全支店管下一円における同社の一般石油製品の販売と、同社が有する登録商標、登録意匠、サービスマーク等の使用及び指定標識を貸与することを目的とした特約販売契約。

契約期間：契約締結の日から1年間。ただし、期間満了3カ月前までに別段の意思表示がない時には、更に1年間有効。

## 6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 財政状態の分析

(総資産)

総資産は、前連結会計年度末に比べ、864,242千円増加し、23,691,293千円となりました。これは、現金及び預金が802,265千円減少したものの、受取手形及び売掛金が724,840千円、有形固定資産が923,638千円増加したことなどによるものです。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ、793,722千円増加し、7,738,355千円となりました。これは、借入金が220,000千円、繰延税金負債が50,143千円減少したものの、支払手形及び買掛金が571,747千円、社債が560,000円増加したことなどによるものです。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ70,519千円増加し、15,952,937千円となりました。これは配当金の支払により利益剰余金が134,533千円減少したものの、当期純利益149,868千円、持分法適用会社の増加による利益剰余金の増加高76,934千円を計上したことなどによるものです。

この結果、1株当たり純資産は前連結会計年度末と比べ10.49円増加し、2,371.60円となりました。

### (2) 経営成績の分析

(営業利益)

販売数量の減少などにより、売上総利益は減少したものの、人件費の圧縮等の経営コスト削減により営業利益は前期と比較して36,141千円の増益となりました。

(経常利益)

経常利益につきましては、営業利益が上述のとおり増益となったものの、投資有価証券評価損を11,501千円計上したこともあり、前期と比較して16,625千円の増益となりました。

(当期純利益)

資産除去債務過年度影響額として34,419千円、減損損失として32,394千円、投資有価証券評価損を34,068千円を計上したことにより、当期純利益は、149,868千円となりました。

### (3) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、営業活動によるキャッシュ・フロー及び財務活動によるキャッシュ・フローにおいて資金が増加したものの、投資活動によるキャッシュ・フローにおいて資金が減少したために、前連結会計年度末に比べ793,385千円減少し、1,442,916千円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローでは、257,209千円の資金の増加となりました。増加の主なものとは税金等調整前当期純利益288,865千円、減価償却費の計上288,879千円、仕入債務の増加額571,747千円であり、減少の主なものとは売上債権の増加額721,536千円、法人税等の支払額193,968千円であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローでは、1,242,199千円の資金の減少となりました。これは有形固定資産の取得による支出1,208,960千円などにより資金が減少したことによるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローでは、191,805千円の資金の増加となりました。これはおもに社債の償還による支出140,000千円、借入金の返済による支出220,000千円、配当金の支払額134,533千円などにより資金が減少したものの、社債の発行による収入700,000千円により資金が増加したことによるものです。

#### (キャッシュ・フローの指標)

項目	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期
自己資本比率 (%)	61.4	62.0	70.3	69.6	67.3
時価ベースの自己資本比率 (%)	24.3	22.0	23.0	23.3	21.1
キャッシュ・フロー対有利子 負債比率 (年)	—	57.4	1.1	—	11.7
インタレスト・カバレッジ・ レシオ	—	1.4	45.9	—	7.8

- (注) 自己資本比率・・・自己資本／総資産  
時価ベースの自己資本比率・・・株式時価総額／総資産  
キャッシュ・フロー対有利子負債比率  
・・・有利子負債／営業キャッシュ・フロー  
インタレスト・カバレッジ・レシオ・・・営業キャッシュ・フロー／利払い

- (a) 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。  
(b) 株式時価総額は、期末株価終値×発行済株式数（自己株式数控除後）により算出しております。  
(c) 営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表上に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。  
(d) 第63期及び第66期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオについては、営業キャッシュ・フローがマイナスであるため記載しておりません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは厳しい経営環境下において高収益体質を構築していくために、総額1,229,501千円の設備投資を実施いたしました。

石油関連事業においては、横浜市栄区においてD・D本郷台南SSを新設するとともに、愛知県長久手町においてSS建設用地を取得いたしました。また、不動産事業においては、更なる安定収益確保のために賃貸マンションモデル三軒茶屋Ⅱを取得するとともに、東京都世田谷区の賃貸マンションドミール砧の建替えを実施いたしました。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）の当連結会計年度末における主要な設備の状況は以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	設備の内容 (セグメント)	帳簿価額					賃借及びリース設備			従業員数 (人)
		建物及び 構築物 (千円)	機械装 置及び 運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	設備の内容	年間賃 借料 (千円)	年間リ ース料 (千円)	
本社 (東京都港区)	事務所 (全社)	36,195	773	4,636 (472.2)	11,945	53,549	事務所	14,616	—	27 (—)
	事務所 (石油関連事業)	2,462	267	— (—)	178	2,908	事務所	3,424	—	23 (1)
東京支店 (東京都港区)	事務所 (石油関連事業)	249	5,253	— (—)	85	5,588	事務所	5,101	—	19 (—)
東京支店SSG (東京都港区) 他17ヶ所	SS (石油関連事業)	26,191	10,535	456,103 (899.9)	3,034	495,865	SSの土地 建物及び機器	134,220	15,178	70 (24)
横浜支店 (横浜市神奈川区)	事務所及び寮 (石油関連事業)	24,471	979	8,154 (872.7)	1,030	34,636	事務所	—	—	9 (—)
横浜支店SSG (横浜市神奈川区) 他11ヶ所	SS (石油関連事業)	189,830	83,884	391,117 (4,521.9)	21,457	686,290	SSの土地 建物及び機器	80,764	5,251	50 (33)
大阪支店 (堺市堺区)	事務所及び寮 (石油関連事業)	26,689	1,137	8,980 (779.6)	1,111	37,918	事務所	2,409	—	9 (1)
大阪支店SSG (堺市堺区) 他11ヶ所	SS (石油関連事業)	56,426	18,538	323,736 (3,309.3)	5,147	403,848	SSの土地 建物及び機器	99,261	9,774	49 (16)
名古屋支店 (名古屋市千種区)	事務所及び寮 (石油関連事業)	35,173	842	683,486 (1,988.5)	558	720,061	事務所	—	—	9 (1)
名古屋支店SSG (名古屋市千種区) 他14ヶ所	SS (石油関連事業)	9,976	16,761	476,411 (2,896.0)	2,431	505,581	SSの土地 建物及び機器	131,707	7,163	62 (19)
仙台支店 (仙台市青葉区)	事務所 (石油関連事業)	—	397	— (—)	440	837	事務所	1,330	—	3 (1)
群馬営業所 (群馬県高崎市)	事務所 (石油関連事業)	—	181	— (—)	2	184	事務所	1,714	—	3 (—)

事業所名 (所在地)	設備の内容 (セグメント)	帳簿価額					賃借及びリース設備			従業員数 (人)
		建物及び 構築物 (千円)	機械装 置及び 運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	設備の内容	年間賃 借料 (千円)	年間リ ース料 (千円)	
ケンタッキーフライ ドチキンインレット 小杉店 (川崎市中原区) 他3ヶ所	店舗 (外食事業)	34,740	4,102	— (—)	3,747	42,591	店舗	23,216	1,245	8 (23)
タリーズコーヒー飯 田橋ガーデンエアタ ワー店 (東京都千代田区) 他6ヶ所	店舗 (外食事業)	69,283	—	— (—)	4,818	74,101	店舗	43,986	—	11 (27)
ベイフロント横浜 (横浜市神奈川区) 他29ヶ所	賃貸施設 (不動産事業)	2,410,719	46,300	2,943,670 (32,685.3)	5,615	5,406,307	—	324	—	1 (—)

(注) 従業員数は就業人員であります。臨時従業員数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

### (2) 国内子会社

事務所名 (所在地)	設備の内容 (セグメント)	帳簿価額					賃借及びリース設備			従業員数 (人)
		建物及び 構築物 (千円)	機械装 置及び 運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	設備の内容	年間賃 借料 (千円)	年間リ ース料 (千円)	
日新瓦斯株式会社 (東京都港区)	事務所及び貯蔵所 (石油関連事業)	280	716	— (—)	62	1,058	事務所及び 管理用端末	11,544	—	19 (1)
協進石油株式会社 (東京都港区)	事務所及びSS (石油関連事業)	—	10,981	— (—)	717	11,698	事務所、SSの 土地建物及び 機器	25,164	—	14 (6)
	賃貸施設 (不動産事業)	50,290	7,666	132,572 (1,709.7)	489	191,018	—	—	—	— (—)
日新レジ株式会社 (横浜市戸塚区)	事務所及び製造所 (石油関連事業)	85	4,392	— (—)	3,690	8,168	事務所及び 製造設備	571	800	13 (1)

(注) 従業員数は就業人員であります。臨時従業員数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

### (3) 在外子会社

事務所名 (所在地)	設備の内容 (セグメント)	帳簿価額					賃借及びリース設備			従業員数 (人)
		建物及び 構築物 (千円)	機械装 置及び 運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	設備の内容	年間賃 借料 (千円)	年間リ ース料 (千円)	
NISTRAD (M) SDN. BHD. (マレーシア)	事務所 (石油関連事業)	6	1,069	— (—)	455	1,532	事務所	1,524	—	2 (—)

(注) 従業員数は就業人員であります。臨時従業員数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(4) 主要な賃貸設備  
提出会社

名称	所在地	用途	構造	延面積	
				土地 (㎡)	建物 (㎡)
川崎充填所	川崎市川崎区	液化石油瓦斯充填設備	鉄骨造亜鉛メッキ 鋼板葺 2 階建	12,709.89	1,046.18
ベイフロント横浜	横浜市神奈川区	事務所	鉄筋コンクリート 造 9 階建	758.78	5,071.58
サンヒルズ学芸大	東京都目黒区	共同住宅	鉄筋コンクリート 造 7 階建	628.08	841.68
ミレニアム北嶺	東京都大田区	共同住宅	鉄筋コンクリート 造 3 階建	358.11	625.00
葉山SS	神奈川県三浦郡 葉山町	SS設備	鉄筋コンクリート 造 1 階建	593.78	61.10
諸江SS	石川県金沢市	SS敷地	—	793.00	—
スリーエフ大和下鶴間 店	神奈川県大和市	店舗	重量鉄骨造Tパネ ル屋根 1 階建	525.80	140.40
トレーニングセンター	群馬県高崎市	研修所敷地	—	871.67	—
サンクス秋田横森店	秋田県秋田市	店舗	重量鉄骨造折版屋 根 1 階建	1,261.94	156.33
サンクス千葉祐光店	千葉市中央区	店舗	重量鉄骨造折版屋 根 1 階建	865.30	154.89
ローソン川崎浅田三丁 目店	川崎市川崎区	店舗	重量鉄骨造折版屋 根 1 階建	438.80	147.47
ローソン岸和田沼店	大阪府岸和田市	店舗	重量鉄骨造折版屋 根 1 階建	1,006.73	152.72
サウスイング上大岡	横浜市南区	共同住宅	鉄筋コンクリート 造 3 階建	992.68	965.21
アドバンス高杉	奈良県生駒市	店舗	軽量鉄骨造陸屋根 3 階建	703.85	628.59
鼓ヶ浦SS	鈴鹿市寺家	SS敷地	—	1,947.00	—
安城貸店舗	愛知県安城市	店舗	鉄骨造亜鉛メッキ 鋼板葺 1 階建	753.86	154.93
成田中央SS	千葉県成田市	SS設備	鉄骨造亜鉛メッキ 鋼板葺 1 階建	492.55	464.00
サンフォーレスト	川崎市中原区	共同住宅	鉄筋コンクリート 造陸屋根 3 階建	484.24	673.84
オーナーズプラザ大山	東京都板橋区	共同住宅	鉄骨鉄筋コンクリ ート造陸屋根地下 1 階付 8 階建	277.25	821.09

名称	所在地	用途	構造	延面積	
				土地 (㎡)	建物 (㎡)
クリオ菊名式番館	横浜市港北区	共同住宅	鉄筋コンクリート 造陸屋根 4 階建	257.04	387.40
ロータスアリー弘明寺	横浜市南区	共同住宅	鉄骨造陸屋根 3 階 建	196.18	290.10
リヴィエール諏訪ノ森	堺市西区	共同住宅	軽量鉄骨造陸屋根 3 階建	348.56	302.85
ホワイトゴールド祐天 寺	東京都目黒区	共同住宅	鉄筋コンクリート 造陸屋根地下 1 階 付 3 階建	179.06	535.98
モデュロール池袋西	東京都豊島区	共同住宅	鉄筋コンクリート 造陸屋根 4 階建	344.25	616.76
モデュロール三軒茶屋 II	東京都世田谷区	共同住宅	鉄筋コンクリート 造陸屋根 4 階建	293.02	658.85
ドミール砧	東京都世田谷区	共同住宅	鉄筋コンクリート 造陸屋根 4 階建	377.70	684.16

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの、重要な設備の新設、除却等の計画は該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,400,000
計	30,400,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成23年6月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,600,000	7,600,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数100株
計	7,600,000	7,600,000	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

記載事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成8年3月6日	1,600,000	7,600,000	1,624,000	3,624,000	1,646,300	3,277,952

(注) 有償・一般募集

入札による募集

発行数 1,000,000株

発行価格 2,030円

資本組入額 1,015円

払込金額総額 2,052,300千円

入札によらない募集

発行数 600,000株

発行価格 2,030円

資本組入額 1,015円

払込金額総額 1,218,000千円

## (6) 【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							単元未満株式の状況 (株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	14	4	47	7	1	5,010	5,083	—
所有株式数 (単元)	—	10,809	2	27,298	191	1	37,692	75,993	700
所有株式数の 割合（%）	—	14.22	0.00	35.92	0.25	0.00	49.60	100	—

(注) 自己株式873,338株は「個人その他」に8,733単元、「単元未満株式の状況」に38株が含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
J Xホールディングス株式会社	東京都千代田区大手町二丁目6番3号	11,400	15.0
日新商事株式会社	東京都港区芝浦一丁目14番5号	8,733	11.5
株式会社日新	横浜市中区尾上町六丁目84番地	8,200	10.8
東電不動産株式会社	東京都中央区京橋一丁目6番1号	4,000	5.3
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社	東京都港区浜松町二丁目11番3号	3,490	4.6
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区有楽町一丁目1番2号	2,500	3.3
筒井 博昭	横浜市青葉区	2,078	2.7
筒井 健司	東京都新宿区	1,643	2.2
筒井 敦子	横浜市港北区	1,561	2.1
日新商事従業員持株会	東京都港区芝浦一丁目14番5号	1,046	1.4
計	—	44,651	58.8

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数3,490百株は特定金銭信託分であります。



## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 873,300	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 6,726,000	67,260	—
単元未満株式	普通株式 700	—	一単元 (100株) 未満 の株式
発行済株式総数	7,600,000	—	—
総株主の議決権	—	67,260	—

## ② 【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 日新商事株式会社	東京都港区芝浦一丁目14番5号	873,300	—	873,300	11.5
計	—	873,300	—	873,300	11.5

- (9) 【ストックオプション制度の内容】  
該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

### 【株式の種類等】

該当事項はありません。

- (1) 【株主総会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (2) 【取締役会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】  
該当事項はありません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	873,338	—	873,338	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

当社の配当政策は、充実した安定配当を継続するとともに、長期的視野に立った事業展開に備えるため、内部留保の確保を勘案して決定し、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、取締役会であります。

この基本方針に基づき、当期（平成23年3月期）の配当は業績及び会社を取り巻く経済環境等を勘案し、1株につき9円、平成22年12月3日に実施済みの中間配当金1株当たり9円と合わせまして、年間配当金は1株当たり18円となります。

内部留保資金につきましては、SS建設・改造等の設備投資等の長期的資金需要に活用し、業容の拡大と経営体質の強化を図る所存であります。

また、当社は会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成22年11月5日 取締役会決議	60	9.0
平成23年5月13日 取締役会決議	60	9.0

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第63期	第64期	第65期	第66期	第67期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高(円)	1,210	984	964	870	835
最低(円)	755	749	515	700	610

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	11月	12月	平成23年1月	2月	3月
最高(円)	794	744	751	813	820	835
最低(円)	721	690	717	748	792	610

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役社長 (代表取締役)		筒井 博昭	昭和31年8月21日生	昭和57年5月 当社入社 平成3年6月 当社取締役販売一部長 平成10年6月 当社常務取締役開発部長 平成12年11月 当社取締役副社長（代表取締役） 平成23年4月 当社取締役社長（代表取締役）（現任）	1年	2,078
専務取締役 (代表取締役)	エネルギー本部 副本部長	田名部 陽介	昭和21年10月12日生	昭和45年4月 当社入社 平成9年6月 当社仙台支店長 平成15年6月 当社取締役SS統括部長 平成17年6月 当社常務取締役エネルギー 本部部長 平成23年6月 当社専務取締役（代表取締役） エネルギー本部副本部長（現任）	1年	52
常務取締役	管理本部長 兼経理部長	本間 一郎	昭和23年6月21日生	昭和47年4月 当社入社 平成14年4月 当社経理部長 平成19年6月 当社取締役経理部長 平成22年6月 当社常務取締役管理本部長 兼経理部長（現任）	1年	43
取締役	ライフビジネス 本部長 兼生活関連部長	磯部 史雄	昭和23年4月30日生	昭和46年4月 日本石油株式会社入社（現 JX日鉱日石エネルギー 株式会社） 平成14年6月 新日本石油ガス株式会社関 東第2支店長（現 ENE OS グローブ株式会社） 平成16年6月 当社取締役新規事業部長 平成19年6月 当社取締役ニュービジネス 本部長兼新規事業部長 平成22年6月 当社取締役ライフビジネス 本部長兼生活関連部長 （現任）	1年	48
取締役	東京支店長	筒井 重伸	昭和24年4月16日生	昭和47年4月 当社入社 平成17年6月 当社SS統括部長 平成21年6月 当社取締役名古屋支店長 平成23年4月 当社取締役東京支店長 （現任）	1年	81
取締役	総務部長	中島 博	昭和25年12月16日生	昭和48年4月 当社入社 平成15年6月 当社総務部長 平成22年6月 当社取締役総務部長 （現任）	1年	75
取締役	エネルギー本部長	青木 修三	昭和25年2月28日生	昭和50年4月 当社入社 平成16年4月 当社経営企画室長 平成23年6月 当社取締役エネルギー本部 部長（現任）	1年	10
常勤監査役		三浦 満男	昭和23年5月12日生	昭和46年4月 当社入社 平成12年4月 当社仙台支店長 平成18年6月 当社取締役東京支店長 平成21年6月 当社常勤監査役（現任）	(注2)	88
監査役		折本 邦夫	昭和22年6月12日生	昭和45年4月 当社入社 平成10年10月 当社仙台支店長 平成17年6月 当社取締役販売部長 平成22年6月 当社監査役（現任）	(注3)	66

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
監査役		山口 睦男	昭和21年1月1日生	昭和39年4月 熊本国税局入局 平成13年7月 横浜南税務署長 平成17年8月 山口睦男税理士事務所開業 平成21年6月 当社監査役(現任)	(注2)	—
監査役		増田 正治	昭和22年5月19日生	昭和48年4月 株式会社三井銀行入行(現 株式会社三井住友銀行) 平成15年3月 株式会社三井住友銀行執行 役員 平成20年6月 株式会社オートシステム代 表取締役社長 平成22年6月 当社監査役(現任)	(注3)	—
計						2,601

(注) 1 監査役山口睦男及び監査役増田正治の両名は、会社法第2条第16号に定める「社外監査役」であります。

2 平成21年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

3 平成22年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

4 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (百株)
亀山 晴信	昭和34年5月15日生	平成4年4月 弁護士登録 岡村勲法律事務所(現 岡村総合法律事務所)入所 平成9年4月 亀山晴信法律事務所(現 亀山総合法律事務所)開設 平成19年6月 株式会社小森コーポレーション社外監査役 平成22年4月 東京簡易裁判所調停委員就任(現任)	—

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営の効率化及び健全化を確保するため、コーポレート・ガバナンスは経営上の重要課題であると認識しております。また、株主の皆様や取引先、地域住民、従業員等のステークホルダーから信頼される経営をすることが、企業価値を最大化する必須条件と考え、コーポレート・ガバナンスの強化、充実を図ってまいります。

#### (2) 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

##### ① 会社の機関の基本説明

当社は、監査役制度採用会社の経営体制とし、経営上の意思決定及び業務執行のチェックに関し、以下のような経営システムを採用しております。

##### 『取締役会』

「取締役会」はグループ全体の業務執行に関する意思決定機関であるとともに、代表取締役の職務執行の監督機関であります。原則毎月1回開催し、重要な決議事項、業績の進捗等について議論し対応策等を検討しております。また、経営環境の変化に迅速に対応できるよう臨時取締役会を適宜開催しております。当該事業年度において、取締役会（臨時取締役会を含む）を20回開催いたしました。

##### 『常務会』

「常務会」は役付役員で構成されており、迅速な業務遂行を可能とするための「取締役会」の補佐機関であります。原則毎月1回開催しております。当該事業年度において、常務会を9回開催いたしました。

##### 『コンプライアンス委員会』

「コンプライアンス委員会」は取締役及び社長が必要と認めた者で構成されており、当社グループが公正で、透明な企業活動を確立するためのコンプライアンス体制の確立、定着を推進させることを目的としております。

##### 『監査役会』

「監査役会」は社外監査役2名を含め4名の監査役で構成されており、うち1名は常勤です。常勤監査役は「取締役会」及び「部支店長会」等の社内主要会議に出席し、業務遂行の状況等をチェックしております。また、稟議書等重要書類の閲覧、監査グループ及び会計監査人等と連携し、当社の監査及びグループ全体の業務、財政状態の調査を実施し、その都度監査役会等で報告が行われております。

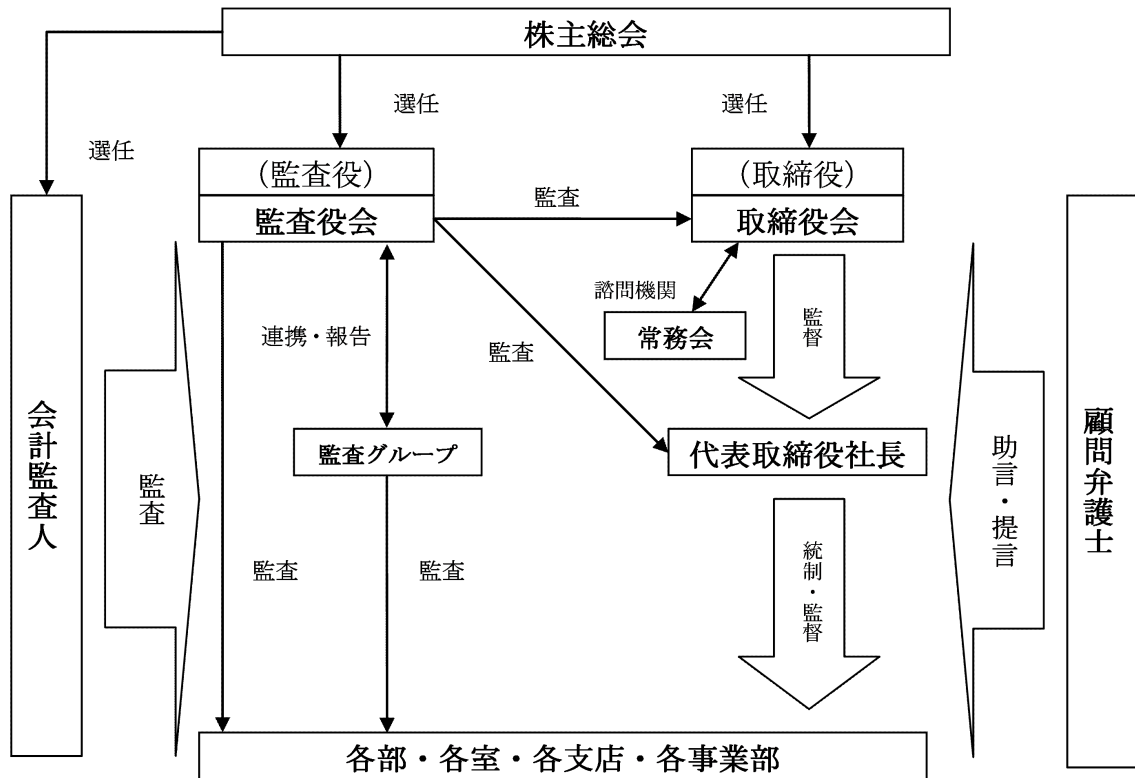
##### 『会計監査人及び顧問弁護士』

「会計監査人」は有限責任監査法人トーマツを選任し、監査契約のもと公正不偏の立場から監査が実施される環境を整備しております。また、顧問弁護士からは法律上の判断を必要とする場合、適宜助言、提言等を受けております。

##### 『社内監査』

「社内監査」は当社監査グループが当社各部、室、支店及び関連会社を対象に、年2回行っております。監査項目は業務推進状況を中心に、コンプライアンス等のチェックを行っております。

当社における経営上の意思決定、経営の監査並びに内部統制システムの略図は次のとおりであります。



② 内部統制システムの整備状況

当社の内部統制システムの整備状況は以下のとおりです。

- a. 取締役及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 

企業行動規範としてのコンプライアンスマニュアルを制定し、役員及び従業員等が法令遵守の精神を理解し、行動することにより公正で透明な企業風土を確立する。また、公益通報に関する規程の運用による不正行為の早期発見、定期的実施する会社業務の実施状況についての内部監査を通じて、会社諸規程の適正性、妥当性を検証する。さらに、市民社会の秩序や安全に対し脅威を与える反社会的勢力について、取引等一切の関係を断絶するとともに、名目の如何を問わず、不当要求行為に対しては所轄官庁や弁護士等と緊密に連携をとり、毅然とした態度で対応する。
- b. 取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 

別途定める文書管理規程に従って管理を行い、取締役及び監査役は常時閲覧可能とする。
- c. 損失の危険の管理に関する規定その他体制
 

業務執行に係る種々のリスクを想定した各種業務規程を整備し、適正な基準に基づき管理、対応する。個人情報保護、事故、災害等のリスクについては、別途規程、マニュアルを定め、また、公益通報制度を設けてリスクの低減を目指す。
- d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 

取締役会が代表取締役の業務を監督し、迅速な業務執行を可能とするための常務会及び取締役、監査役、業務の責任者である執行役員が参加する役員協議会にて、現状報告と情報の共有化を図る。また、取締役の職務の執行が円滑に機能するための事務局を取締役会は総務部、常務会、役員協議会は経営企画室とする。
- e. 当該株式会社並びに親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保する体制
 

関係会社管理規程を整備するとともに、企業集団としての行動指針、コンプライアンスや情報セキュリティなど理念の統一を保ち、また、当社の取締役または業務責任者が各子会社の取締役あるいは監査役を兼任するなどして、業務情報を把握する。

- f. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを定めた場合における当該使用人に関する事項  
監査役が十分に職務を遂行できるよう、内部監査部門が監査役会の職務の補助を兼務する。
- g. 前号使用人の取締役からの独立性に関する事項  
内部監査部門の使用人の任命、異動、処遇については監査役会と事前協議する。
- h. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他監査役への報告に関する体制  
常勤監査役は取締役会のほか、役員協議会等重要な会議に出席し、また稟議書等の重要書類を閲覧する。  
必要に応じ取締役、執行役員、その他使用人から業務の執行の状況を聴取する。また、内部監査部門から、会社の業務の実施状況についての内部監査、コンプライアンス状況、公益通報等の状況についての報告を受ける。
- i. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制  
取締役及び重要な使用人とのヒアリングを行う。また、会計監査人、顧問弁護士、税理士との連携を図る。
- j. 財務報告の信頼性と適正性を確保するための体制  
当社は、当社グループの財務報告の信頼性と適正性を確保するため、金融商品取引法をはじめ関係法令等の定めに従い、健全な内部統制環境の保持に努め、全社的な内部統制プロセス及び各業務プロセスの統制活動を強化し、有効かつ正当な評価ができるよう内部統制システムを構築し、適正な運用に努めるとともに、定期的、継続的に評価、改善を実施する。

③ 内部監査及び監査役監査の状況

上記①会社の機関の基本説明『監査役会』及び『社内監査』に記載のとおりであります。

④ 会計監査の状況

当社は、会社法に基づく会計監査人及び金融商品取引法に基づく会計監査人に有限責任監査法人トーマツを起用しておりますが、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別な利害関係はなく、また、同監査法人はすでに自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。当社は同監査法人との間で、監査契約書を締結し、それに基づき報酬を支払っております。当連結会計年度において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については下記のとおりです。

- ・業務を執行した公認会計士の氏名  
指定社員 業務執行社員：吉村孝郎、佐々田博信
- ・会計監査業務に係る補助者の構成  
公認会計士2名、会計士補等2名、その他1名

⑤ 社外取締役及び社外監査役との関係

当社では社外取締役を選任しておりません。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えておりますが、当社は監査役4名のうち2名の社外監査役を選任しており、経営監視機能は十分に機能する体制が整っていると考えております。また、取締役の任期を1年とし、毎事業年度における取締役の経営責任を明確化するなど、コーポレート・ガバナンス体制の充実に努めております。

(3) リスク管理体制の整備状況

業務遂行に係る種々のリスクを想定した各種業務規程を整備し、適正な基準に基づき管理、対応しております。個人情報漏洩、事故、災害等の緊急時におけるリスクについては、別途マニュアル等を定めて運用するとともに公益通報制度を設けリスクの低減を目指しております。

また各機能におけるリスクを分析しその対応策を策定する仕組みを導入し、様々なリスクを低減する体制を整備しております。



## (4) 役員報酬

## ① 当事業年度における役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	104,210	94,390	—	9,820	—	8
監査役 (社外監査役を除く。)	17,600	15,600	—	1,250	—	3
社外役員	5,950	5,520	—	430	—	3

(注) 報酬限度額

取締役	200,000千円
監査役	50,000千円

## ② 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は、次のとおりであります。

当社役員の報酬は、主に月例定額報酬と賞与で構成されており、支給水準は当社の経営状況、各役員の役割や責任、更に従業員とのバランス等を勘案し、各役員に相応しい額を、株主総会で承認され報酬総額の範囲内で決定しております。

なお、当社は役員退職慰労金制度を廃止しております。

## (5) 株式の保有状況

## ① 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

36銘柄 1,949,697千円

## ② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株式会社日新	4,099,000	885,384	取引関係の発展・強化のため
キッセイ薬品工業株式会社	129,000	250,647	取引関係の構築・強化のため
日本精化株式会社	286,000	206,492	取引関係の構築・強化のため
東京電力株式会社	70,970	176,857	取引関係の発展・強化のため
ユシロ化学工業株式会社	100,833	118,781	取引関係の発展・強化のため
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	30,900	95,481	取引関係の維持・強化のため
株式会社ユーシン	89,000	66,394	取引関係の構築・強化のため
株式会社クボタ	45,759	38,986	取引関係の発展・強化のため
株式会社みずほフィナンシャルグループ	208,000	38,480	取引関係の維持・強化のため
株式会社横浜銀行	78,000	35,724	取引関係の維持・強化のため

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株式会社日新	4,099,000	918,176	取引関係の発展・強化のため
キッセイ薬品工業株式会社	129,000	201,240	取引関係の構築・強化のため
日本精化株式会社	286,000	149,006	取引関係の構築・強化のため
ユシロ化学工業株式会社	101,575	113,764	取引関係の発展・強化のため
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	30,900	79,907	取引関係の維持・強化のため
株式会社ユーシン	89,000	57,405	取引関係の構築・強化のため
株式会社クボタ	46,418	36,392	取引関係の発展・強化のため
東京電力株式会社	70,970	33,072	取引関係の発展・強化のため
明治ホールディングス株式会社	9,828	32,874	取引関係の維持・強化のため
株式会社横浜銀行	78,000	30,810	取引関係の維持・強化のため

(6) 取締役及び監査役の責任軽減

当社は、取締役及び監査役が期待できる役割を十分に果たすことができるように、取締役（取締役であったものを含む。）及び監査役（監査役であったものを含む。）の会社法第426条第1項の責任について、職務を行うにつき善意かつ重大な過失がないときは、その責任を、法令の限度において、取締役会の決議により免除することができる旨定款に定めております。

(7) 責任限定契約の内容の概要

当社と社外監査役は会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がない場合に限られます。

(8) 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

(9) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

(10) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(11) 自己株式取得に関する決定機関

当社は、会社法第165条第2項に定める自己株式の取得について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により取得することができる旨定款に定めております。これは、経営変化に対応した機動的な資本政策を遂行することを目的とするものであります。

(12) 剰余金の配当金等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	30,500	—	30,500	2,000
連結子会社	—	—	—	—
計	30,500	—	30,500	2,000

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

（前連結会計年度）

該当事項はありません。

（当連結会計年度）

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、国際財務報告基準導入に係る助言・指導業務であります。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日程等を勘案した上で決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、第66期事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、第67期事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）及び当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の連結財務諸表並びに第66期事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）及び第67期事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,259,111	1,456,845
受取手形及び売掛金	7,686,173	8,411,013
商品及び製品	523,541	573,269
繰延税金資産	146,193	124,685
その他	150,149	134,333
貸倒引当金	△25,795	△30,778
流動資産合計	10,739,371	10,669,369
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※2 6,000,924	※2 6,414,608
減価償却累計額	△3,268,958	△3,441,535
建物及び構築物（純額）	2,731,965	2,973,072
機械装置及び運搬具	942,424	993,865
減価償却累計額	△736,038	△779,083
機械装置及び運搬具（純額）	206,386	214,782
土地	※2 4,748,724	※2 5,428,870
その他	336,891	359,849
減価償却累計額	△263,860	△292,828
その他（純額）	73,031	67,020
有形固定資産合計	7,760,108	8,683,746
無形固定資産	147,525	162,923
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 2,650,625	※2 2,369,982
関係会社株式	※1, ※2 714,158	※1, ※2 997,141
長期貸付金	28,314	18,879
繰延税金資産	26,118	32,623
その他	837,868	824,125
貸倒引当金	△77,040	△67,499
投資その他の資産合計	4,180,044	4,175,253
固定資産合計	12,087,679	13,021,924
資産合計	22,827,050	23,691,293

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	※2 1,768,493	※2 2,340,241
短期借入金	※2 765,000	※2 665,000
未払金	581,374	548,372
未払法人税等	121,046	84,353
賞与引当金	229,372	206,510
役員賞与引当金	13,100	14,948
固定資産撤去費用引当金	19,700	—
その他	254,179	606,869
<b>流動負債合計</b>	<b>3,752,266</b>	<b>4,466,293</b>
<b>固定負債</b>		
社債	1,020,000	1,206,000
長期借入金	※2 240,000	※2 120,000
繰延税金負債	50,143	—
退職給付引当金	995,074	986,756
役員退職慰労引当金	61,534	61,534
資産除去債務	—	66,449
その他	825,613	831,321
<b>固定負債合計</b>	<b>3,192,365</b>	<b>3,272,061</b>
<b>負債合計</b>	<b>6,944,632</b>	<b>7,738,355</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	3,624,000	3,624,000
資本剰余金	3,280,507	3,281,625
利益剰余金	9,240,085	9,332,354
自己株式	△643,318	△643,318
<b>株主資本合計</b>	<b>15,501,273</b>	<b>15,594,661</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	390,483	367,817
為替換算調整勘定	△9,338	△9,540
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>381,145</b>	<b>358,276</b>
<b>純資産合計</b>	<b>15,882,418</b>	<b>15,952,937</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>22,827,050</b>	<b>23,691,293</b>

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高	58,421,860	63,748,597
売上原価	52,149,608	57,507,538
売上総利益	6,272,251	6,241,058
販売費及び一般管理費		
支払手数料	616,232	624,437
広告宣伝費	91,707	105,695
貸倒引当金繰入額	6,336	8,335
給料及び手当	1,733,223	1,696,928
臨時雇用給	501,649	457,626
賞与	222,110	230,618
賞与引当金繰入額	223,899	202,158
役員賞与引当金繰入額	13,788	14,948
退職給付引当金繰入額	120,805	155,940
賃借料	720,297	679,646
減価償却費	185,635	183,136
その他	1,631,339	1,640,221
販売費及び一般管理費合計	6,067,026	5,999,691
営業利益	205,224	241,366
営業外収益		
受取利息	4,812	3,444
受取配当金	92,396	87,679
仕入割引	29,998	26,516
軽油引取税納税報奨金	44,028	47,302
持分法による投資利益	—	10,269
その他	71,812	63,263
営業外収益合計	243,049	238,477
営業外費用		
支払利息	41,100	37,276
社債発行費	5,806	13,660
売上割引	1,576	1,386
投資有価証券評価損	—	11,501
その他	17,904	17,506
営業外費用合計	66,388	81,332
経常利益	381,886	398,511

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	※1 937	—
特別利益合計	937	—
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	※2 696	※2 72
固定資産除却損	※3 17,970	※3 7,561
減損損失	※4 6,709	※4 32,393
固定資産臨時償却費	28,981	—
固定資産撤去費用引当金繰入額	19,700	—
投資有価証券評価損	—	34,068
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	34,419
為替換算調整勘定取崩額	8,988	—
その他	150	1,130
特別損失合計	83,196	109,645
税金等調整前当期純利益	299,627	288,865
法人税、住民税及び事業税	167,023	158,547
法人税等調整額	15,574	△19,550
法人税等合計	182,597	138,997
少数株主損益調整前当期純利益	—	149,868
当期純利益	117,029	149,868



## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	—	149,868
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△24,081
為替換算調整勘定	—	△202
持分法適用会社に対する持分相当額	—	1,415
その他の包括利益合計	—	※2 △22,868
包括利益	—	※1 127,000
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	—	127,000
少数株主に係る包括利益	—	—

## ③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	株主資本			
資本金				
前期末残高		3,624,000		3,624,000
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		3,624,000		3,624,000
資本剰余金				
前期末残高		3,280,507		3,280,507
当期変動額				
自己株式の処分		—		1,118
当期変動額合計		—		1,118
当期末残高		3,280,507		3,281,625
利益剰余金				
前期末残高		9,244,135		9,240,085
当期変動額				
剰余金の配当		△121,079		△134,533
当期純利益		117,029		149,868
持分法の適用範囲の変動		—		76,934
当期変動額合計		△4,050		92,269
当期末残高		9,240,085		9,332,354
自己株式				
前期末残高		△643,318		△643,318
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		△643,318		△643,318
株主資本合計				
前期末残高		15,505,323		15,501,273
当期変動額				
剰余金の配当		△121,079		△134,533
当期純利益		117,029		149,868
自己株式の処分		—		1,118
持分法の適用範囲の変動		—		76,934
当期変動額合計		△4,050		93,387
当期末残高		15,501,273		15,594,661

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	250,093	390,483
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	140,389	△22,665
当期変動額合計	140,389	△22,665
当期末残高	390,483	367,817
為替換算調整勘定		
前期末残高	△20,958	△9,338
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	11,619	△202
当期変動額合計	11,619	△202
当期末残高	△9,338	△9,540
その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	229,135	381,145
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	152,009	△22,868
当期変動額合計	152,009	△22,868
当期末残高	381,145	358,276
純資産合計		
前期末残高	15,734,459	15,882,418
当期変動額		
剰余金の配当	△121,079	△134,533
当期純利益	117,029	149,868
自己株式の処分	—	1,118
持分法の適用範囲の変動	—	76,934
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	152,009	△22,868
当期変動額合計	147,959	70,519
当期末残高	15,882,418	15,952,937

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益		299,627		288,865
減価償却費		292,604		288,879
固定資産臨時償却費		28,981		—
減損損失		6,709		32,393
退職給付引当金の増減額 (△は減少)		23,060		△8,318
貸倒引当金の増減額 (△は減少)		5,122		△4,557
賞与引当金の増減額 (△は減少)		△36,880		△22,862
固定資産撤去費用引当金の増減額 (△は減少)		19,700		—
受取利息及び受取配当金		△97,209		△91,124
支払利息		41,100		37,276
持分法による投資損益 (△は益)		—		△10,269
投資有価証券評価損益 (△は益)		—		45,569
固定資産除売却損益 (△は益)		17,730		7,633
前払年金費用の増減額 (△は増加)		△27,929		13,777
差入保証金の増減額 (△は増加)		△31,000		—
預り保証金の増減額 (△は減少)		△2,956		—
売上債権の増減額 (△は増加)		△1,064,882		△721,536
たな卸資産の増減額 (△は増加)		5,448		△49,728
仕入債務の増減額 (△は減少)		610,342		571,747
未払軽油引取税の増加額又は減少額 (△)		33,737		△4,145
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額		—		34,419
その他		△106,308		△17,506
小計		16,997		390,514
利息及び配当金の受取額		95,216		93,475
利息の支払額		△38,963		△32,811
法人税等の支払額		△186,600		△193,968
営業活動によるキャッシュ・フロー		△113,350		257,209
投資活動によるキャッシュ・フロー				
有形固定資産の取得による支出		△735,753		△1,208,960
有形固定資産の売却による収入		2,356		1,934
有形固定資産の除却による支出		—		△24,154
無形固定資産の取得による支出		—		△19,000
投資有価証券の取得による支出		△58,696		—
差入保証金の差入による支出		△4,978		—
差入保証金の回収による収入		6,006		—
貸付けによる支出		△13,970		△5,780
貸付金の回収による収入		10,285		14,938
その他		△15,482		△1,175
投資活動によるキャッシュ・フロー		△810,231		△1,242,199

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△100,000
社債の発行による収入	300,000	700,000
社債の償還による支出	△400,000	△140,000
長期借入金の返済による支出	△120,000	△120,000
配当金の支払額	△121,079	△134,533
その他	△7,162	△13,660
財務活動によるキャッシュ・フロー	△348,241	191,805
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,619	△202
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,260,203	△793,385
現金及び現金同等物の期首残高	3,496,505	2,236,302
現金及び現金同等物の期末残高	* 2,236,302	* 1,442,916

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
1 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社の数 4社 日新瓦斯株式会社 協進石油株式会社 日新レジン株式会社 NISTRAD (M) SDN. BHD.</p> <p>(2) 中京日新株式会社は、平成21年9月25日付で清算終了したため、上記子会社数には含んでおりませんが、清算終了日までの損益計算書については連結しております。</p> <p>NISSIN SHOJI SINGAPORE PTE. LTD. は平成21年11月30日付で解散し、平成22年3月23日付で清算終了したため、上記子会社数には含んでおりませんが、清算終了日までの損益計算書については連結しております。</p> <p>(会計方針の変更) 当連結会計年度より、「連結財務諸表における子会社及び関連会社の範囲の決定に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第22号 平成20年5月13日)を適用しております。</p> <p>これによる当連結会計年度の損益へ与える影響はありません。</p> <p>なお、当連結会計年度のセグメント情報に与える影響はありません。</p>	<p>(1) 連結子会社の数 4社 日新瓦斯株式会社 協進石油株式会社 日新レジン株式会社 NISTRAD (M) SDN. BHD.</p>
2 持分法の適用に関する事項	<p>持分法を適用しない関連会社 1社 関連会社日新興産株式会社は、連結純損益及び利益剰余金等に重要な影響を及ぼさないため、当該会社に対する投資については持分法を適用せず、原価法により評価しております。</p>	<p>持分法を適用の関連会社 1社 日新興産株式会社 当連結会計年度より、日新興産株式会社は、重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。</p>
3 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p>連結子会社の決算日は、NISSIN SHOJI SINGAPORE PTE. LTD. 及びNISTRAD (M) SDN. BHD. を除いて、連結決算日と一致しております。NISSIN SHOJI SINGAPORE PTE. LTD. 及びNISTRAD (M) SDN. BHD. の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>	<p>連結子会社の決算日は、NISTRAD (M) SDN. BHD. を除いて、連結決算日と一致しております。NISTRAD (M) SDN. BHD. の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>

項目	前連結会計年度 自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日	当連結会計年度 自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日
<p>4 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p>	<p>(1) 有価証券          その他有価証券          時価のあるもの          決算期末日の市場価格等に基づく時価法          (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)          時価のないもの          移動平均法による原価法</p> <p>(2) たな卸資産          メーター商品          総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)          その他商品          主に先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)</p> <p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く)          定率法、但し平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法によっております。          なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。          建物及び構築物 10～47年          機械装置及び運搬具 2～8年          有形固定資産のその他 2～10年</p> <p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く)          自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> <p>(3) リース資産          所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産          リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用することとしております。          なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借処理によっております。</p> <p>(1) 貸倒引当金          債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p>	<p>(1) 有価証券          同左</p> <p>(2) たな卸資産          メーター商品          同左          その他商品          同左</p> <p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く)          同左</p> <p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く)          同左</p> <p>(3) リース資産          同左</p> <p>(1) 貸倒引当金          同左</p>

項目	前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
(4) 重要な外貨建の資産 又は負債の本邦通貨 への換算の基準	<p>(2) 賞与引当金 従業員に対し翌連結会計年度に支給する賞与に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。</p> <p>(4) 固定資産撤去費用引当金 将来の固定資産の撤去に伴う費用の発生に備えるため、発生費用見込額を計上しております。</p> <p>(5) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。また、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理しております。</p> <p>なお、当連結会計年度末では年金資産の額が企業年金制度に係る退職給付債務の額から未認識数理計算上の差異を控除した金額を超過している状態のため、当該超過額を前払年金費用（246,503千円）として投資その他の資産の「その他」に計上しております。</p> <p>(会計方針の変更) 当連結会計年度より、「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用しております。</p> <p>数理計算上の差異を翌連結会計年度から償却するため、これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>また、本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額の未処理残高は18,872千円であります。</p> <p>(6) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく制度廃止時（平成17年6月末）の支給予定額を計上しております。</p> <p>なお、「役員退職慰労引当金」は、制度適用期間中から在任している役員に対する支給予定であります。</p> <p>外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて表示しております。</p>	<p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 役員賞与引当金 同左</p> <p>(4) _____</p> <p>(5) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。また、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理しております。</p> <p>なお、当連結会計年度末では年金資産の額が企業年金制度に係る退職給付債務の額から未認識数理計算上の差異を控除した金額を超過している状態のため、当該超過額を前払年金費用（232,726千円）として投資その他の資産の「その他」に計上しております。</p> <p>(6) 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>同左</p>



項目	前連結会計年度		当連結会計年度	
	自	平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	自	平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	—————		手元現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	
(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。		消費税等の会計処理 同左	
5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。但し、当連結会計年度は評価差額は発生しておりません。		—————	
6 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。		—————	

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
—————	<p>（資産除去債務に関する会計基準）</p> <p>当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。</p> <p>これにより、当連結会計年度の営業利益、経常利益がそれぞれ5,293千円減少し、税金等調整前当期純利益は39,712千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は65,234千円であります。</p>

【表示方法の変更】

<p>前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日</p>	<p>当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日</p>
<p>連結損益計算書</p> <p>前連結会計年度において、営業外費用に区分掲記しておりました「貸倒引当金繰入額」（当連結会計年度790千円）は、営業外費用の100分の10以下となったために当連結会計年度において営業外費用の「その他」に含めて表示しております。</p>	<p>連結損益計算書</p> <p>「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当連結会計年度では、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p>
<p>連結キャッシュ・フロー計算書</p> <p>1. 営業活動によるキャッシュ・フロー</p> <p>前連結会計年度において「その他」に含めて表示しておりました「固定資産臨時償却費」（前連結会計年度4,119千円）は、当連結会計年度において金額的重要性が増したために、当連結会計年度において区分掲記しております。</p> <p>2. 投資活動によるキャッシュ・フロー</p> <p>前連結会計年度において区分掲記しておりました「定期預金の増減額」（当連結会計年度240千円）は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度において「その他」に含めて表示しております。</p>	<p>連結キャッシュ・フロー計算書</p> <p>1. 営業活動によるキャッシュ・フロー</p> <p>前連結会計年度において区分掲記しておりました「預り保証金の増減額」（当連結会計年度438千円）は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度において「その他」に含めて表示しております。</p> <p>2. 投資活動によるキャッシュ・フロー</p> <p>前連結会計年度において「その他」に含めて表示しておりました「有形固定資産の除却による支出」（前連結会計年度△10,329千円）及び「無形固定資産の取得による支出」（前連結会計年度△3,642千円）は、当連結会計年度において金額的重要性が増したために、当連結会計年度において区分掲記しております。</p> <p>また、前連結会計年度において区分掲記しておりました「投資有価証券の取得による支出」（当連結会計年度△2,288千円）、「差入保証金の差入による支出」（当連結会計年度△1,070千円）及び「差入保証金の回収による収入」（当連結会計年度2,051千円）は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度において「その他」に含めて表示しております。</p>

【追加情報】

<p>前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日</p>	<p>当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日</p>
<p>—————</p>	<p>当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 平成22年3月31日	当連結会計年度 平成23年3月31日																																								
<p>※1 関連会社に対する株式・出資金は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">関係会社株式</td> <td style="text-align: right;">12,060千円</td> </tr> </table> <p>※2 借入金等の担保に提供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。</p> <p>(担保提供資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">140,439千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">844,464千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">557,415千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">関係会社株式</td> <td style="text-align: right;">409,770千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,952,089千円</td> </tr> </table> <p>(対応債務)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払手形及び買掛金</td> <td style="text-align: right;">681,681千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">540,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">240,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,461,681千円</td> </tr> </table> <p>3 保証債務</p> <p>従業員の銀行からの借入金（住宅資金銀行提携ローン）に対して保証を行っております。</p> <p style="text-align: right;">1,640千円</p>	関係会社株式	12,060千円	建物及び構築物	140,439千円	土地	844,464千円	投資有価証券	557,415千円	関係会社株式	409,770千円	計	1,952,089千円	支払手形及び買掛金	681,681千円	短期借入金	540,000千円	長期借入金	240,000千円	計	1,461,681千円	<p>※1 関連会社に対する株式・出資金は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">関係会社株式</td> <td style="text-align: right;">100,932千円</td> </tr> </table> <p>※2 借入金等の担保に提供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。</p> <p>(担保提供資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">126,483千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">844,464千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">560,209千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">関係会社株式</td> <td style="text-align: right;">521,304千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,052,461千円</td> </tr> </table> <p>(対応債務)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払手形及び買掛金</td> <td style="text-align: right;">1,239,114千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">540,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">120,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,899,114千円</td> </tr> </table> <p>3 保証債務</p> <p>従業員の銀行からの借入金（住宅資金銀行提携ローン）に対して保証を行っております。</p> <p style="text-align: right;">1,363千円</p>	関係会社株式	100,932千円	建物及び構築物	126,483千円	土地	844,464千円	投資有価証券	560,209千円	関係会社株式	521,304千円	計	2,052,461千円	支払手形及び買掛金	1,239,114千円	短期借入金	540,000千円	長期借入金	120,000千円	計	1,899,114千円
関係会社株式	12,060千円																																								
建物及び構築物	140,439千円																																								
土地	844,464千円																																								
投資有価証券	557,415千円																																								
関係会社株式	409,770千円																																								
計	1,952,089千円																																								
支払手形及び買掛金	681,681千円																																								
短期借入金	540,000千円																																								
長期借入金	240,000千円																																								
計	1,461,681千円																																								
関係会社株式	100,932千円																																								
建物及び構築物	126,483千円																																								
土地	844,464千円																																								
投資有価証券	560,209千円																																								
関係会社株式	521,304千円																																								
計	2,052,461千円																																								
支払手形及び買掛金	1,239,114千円																																								
短期借入金	540,000千円																																								
長期借入金	120,000千円																																								
計	1,899,114千円																																								

## (連結損益計算書関係)

前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日				当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日					
※1 固定資産売却益 機械装置及び運搬具 937千円				※1 _____					
※2 固定資産売却損 機械装置及び運搬具 305千円 有形固定資産のその他 391千円 計 696千円				※2 固定資産売却損 機械装置及び運搬具 72千円 計 72千円					
※3 固定資産除却損 建物及び構築物 4,987千円 機械装置及び運搬具 1,355千円 有形固定資産のその他 491千円 無形固定資産 1,106千円 除却費用 10,029千円 計 17,970千円				※3 固定資産除却損 機械装置及び運搬具 722千円 有形固定資産のその他 204千円 無形固定資産 3,854千円 投資その他の資産のその他 63千円 除却費用 2,716千円 計 7,561千円					
※4 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。				※4 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。					
用途	場所	種類	減損損失 (千円)	用途	場所	種類	減損損失 (千円)		
石油関連 事業	SS (東京都北区 他6ヶ所)	建物及び構築物	306	石油関連 事業	SS (東京都武蔵 村山市他9ヶ 所)	建物及び構築物	2,476		
		機械装置及び運搬具	1,276			機械装置及び運搬具	15,062		
		有形固定資産のその他	577			有形固定資産のその他	2,700		
		無形固定資産	591			無形固定資産	914		
		ファイナンスリース	2,682			計	21,154		
計			5,434	外食事業			タリーズコーヒー店 (東京都千代田区他2ヶ所)	建物及び構築物 有形固定資産のその他 無形固定資産 投資その他の資産のその他 計	9,699 1,027 76 435 11,239
外食事業	ケンタッキーフライドチキン店及びタリーズコーヒー店 (横浜市緑区他1ヶ所)	建物及び構築物 有形固定資産のその他 投資その他の資産のその他 計	216 557 500 1,274	合計				32,393	
合計			6,709						

前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
<p>当社グループは、事業区分を基にキャッシュ・フローを生み出す最小単位として1店舗毎・1物件毎を基本単位としてグルーピングしております。</p> <p>上記の事業について、販売マージンの悪化等による事業環境の激変により、継続して損益がマイナスであることから帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（6,709千円）として特別損失に計上しております。</p> <p>石油関連事業及び外食事業の資産グループの回収可能価額については、主として使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.0%で割り引いて算出しております。</p> <p>遊休資産の資産グループの回収可能価額については、主として正味売却価額により測定しており、重要性の高い資産の測定については、不動産鑑定評価基準に基づく評価額によっております。</p>	<p>当社グループは、事業区分を基にキャッシュ・フローを生み出す最小単位として1店舗毎・1物件毎を基本単位としてグルーピングしております。</p> <p>上記の事業について、販売マージンの悪化等による事業環境の激変により、継続して損益がマイナスであることから帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（32,393千円）として特別損失に計上しております。</p> <p>石油関連事業及び外食事業の資産グループの回収可能価額については、主として使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.0%で割り引いて算出しております。</p> <p>遊休資産の資産グループの回収可能価額については、主として正味売却価額により測定しており、重要性の高い資産の測定については、不動産鑑定評価基準に基づく評価額によっております。</p>

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

※1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益

親会社株主に係る包括利益	269,039千円
少数株主に係る包括利益	—
計	269,039

※2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益

その他有価証券評価差額金	140,389千円
為替換算調整勘定	11,619
計	152,009

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	7,600,000	—	—	7,600,000
合計	7,600,000	—	—	7,600,000
自己株式				
普通株式	873,338	—	—	873,338
合計	873,338	—	—	873,338

2. 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			前連結会計 年度末	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	平成17年 新株予約権	普通株式	217,000	—	—	217,000	—

(注) 目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載しております。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年5月15日 取締役会	普通株式	60,539	9.00	平成21年3月31日	平成21年6月9日
平成21年11月6日 取締役会	普通株式	60,539	9.00	平成21年9月30日	平成22年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年5月14日 取締役会	普通株式	73,993	利益剰余金	11.00	平成22年3月31日	平成22年6月10日

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	7,600,000	—	—	7,600,000
合計	7,600,000	—	—	7,600,000
自己株式				
普通株式	873,338	—	—	873,338
合計	873,338	—	—	873,338

2. 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （千円）
			前連結会計 年度末	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 （親会社）	平成17年 新株予約権	普通株式	217,000	—	217,000	—	—

（注）（1）目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載しております。

（2）新株予約権の減少は権利の失効によるものであります。

3. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成22年5月14日 取締役会	普通株式	73,993	11.00	平成22年3月31日	平成22年6月10日
平成22年11月5日 取締役会	普通株式	60,539	9.00	平成22年9月30日	平成22年12月3日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年5月13日 取締役会	普通株式	60,539	利益剰余金	9.00	平成23年3月31日	平成23年6月10日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係	※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係
現金及び預金 2,259,111千円	現金及び預金 1,456,845千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金 △22,808千円	預入期間が3ヶ月を超える 定期預金 △13,928千円
現金及び現金同等物 2,236,302千円	現金及び現金同等物 1,442,916千円

## (リース取引関係)

前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日				当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日			
リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権 移転外ファイナンス・リース取引				リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移 転外ファイナンス・リース取引			
1 取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累 計額相当額及び期末残高相当額				1 取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累 計額相当額及び期末残高相当額			
(単位：千円)				(単位：千円)			
	機械装置及 び運搬具	その他	合計	機械装置及 び運搬具	その他	合計	
取得価額 相当額	193,674	67,812	261,486	取得価額 相当額	113,946	36,618	150,564
減価償却累 計額相当額	119,504	36,107	155,611	減価償却累 計額相当額	73,132	18,563	91,696
減損損失累 計額相当額	43,503	27,221	70,725	減損損失累 計額相当額	27,041	16,495	43,536
期末残高 相当額	30,666	4,483	35,149	期末残高 相当額	13,773	1,558	15,331
(注) 取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等 に占める未経過リース料期末残高の割合が低い ため、「支払利子込み法」により算定しており ます。				(注) 取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等 に占める未経過リース料期末残高の割合が低い ため、「支払利子込み法」により算定しており ます。			
2 未経過リース料期末残高相当額等				2 未経過リース料期末残高相当額等			
未経過リース料期末残高相当額				未経過リース料期末残高相当額			
1年内				1年内			
			39,444千円				21,680千円
1年超				1年超			
			26,349千円				4,550千円
合計			65,793千円	合計			26,231千円
リース資産減損勘定の残高				リース資産減損勘定の残高			
			30,644千円				10,899千円
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、有形固定資 産の期末残高等に占める未経過リース料期末残 高の割合が低いため、「支払利子込み法」によ り算定しております。				(注) 未経過リース料期末残高相当額は、有形固定資 産の期末残高等に占める未経過リース料期末残 高の割合が低いため、「支払利子込み法」によ り算定しております。			
3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償 却費相当額及び減損損失				3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償 却費相当額及び減損損失			
支払リース料				支払リース料			
			60,203千円				39,414千円
リース資産減損勘定の取崩額				リース資産減損勘定の取崩額			
			25,809千円				19,744千円
減価償却費相当額				減価償却費相当額			
			34,393千円				19,669千円
減損損失				減損損失			
			2,682千円				
4 減価償却費相当額の算定方法				4 減価償却費相当額の算定方法			
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額 法によっております。				同左			



(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、各セグメント事業ごとの設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入や社債発行)を調達しております。一時的な資金は安全性の高い金融資産で運用し、短期的な運転資金は銀行借入により調達しております。また、当社グループはデリバティブ取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、有価証券及び投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、すべて1年以内の支払期日であります。また、借入金及び社債は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で4年3ヵ月後であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、債権管理規程に従い、営業債権及び長期貸付金について、各事業部門における営業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

当期の連結決算日における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額によって表わされております。

② 市場リスク(金利等の変動リスク)

当社グループは、有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、かつ、取引先企業との関係を勘案して保有状況を見直しております。

また、デリバティブ取引については行わない方針であります。

③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,259,111	2,259,111	—
(2) 受取手形及び売掛金	7,686,173	7,686,173	—
(3) 投資有価証券	2,467,437	2,467,437	—
(4) 関係会社株式	702,098	702,098	—
資産計	13,114,820	13,114,820	—
(1) 支払手形及び買掛金	1,768,493	1,768,493	—
(2) 短期借入金	645,000	645,000	—
(3) 社債（1年以内償還予定の社債を含む）	1,140,000	1,154,097	14,097
(4) 長期借入金（1年以内返済予定の長期借入金を含む）	360,000	361,667	1,667
負債計	3,913,493	3,929,258	15,765
デリバティブ取引	—	—	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

### 資 産

#### (1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### (2) 受取手形及び売掛金

これらの時価については、当該受取手形及び売掛金がすべて1年以内の回収期日であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### (3) 投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、その他については取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

なお、当連結会計年度末において債権は保有しておりません。

#### (4) 関係会社株式

これらの時価については、取引所の価格によっております。

### 負 債

#### (1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらの時価については、当該支払手形及び買掛金並びに短期借入金がすべて1年以内の償還期日であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### (3) 社債（1年以内償還予定の社債を含む）

当社の発行する社債の時価は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金を、新規に同様の発行を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、当連結会計年度末において市場価格のあるものは該当ありません。

#### (4) 長期借入金（1年以内返済予定の長期借入金を含む）

これらの時価については、元利金を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

#### デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（千円）
非上場株式	192,211
その他	3,037
合計	195,248

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、(3) 投資有価証券及び(4) 関係会社株式には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,259,111	—	—	—
受取手形及び売掛金	7,686,173	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他	—	60,874	17,229	—
合計	9,945,284	60,874	17,229	—

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、各セグメント事業ごとの設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。一時的な資金は安全性の高い金融資産で運用し、短期的な運転資金は銀行借入により調達しております。また、当社グループはデリバティブ取引は行わない方針であります。

### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、有価証券及び投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、すべて1年以内の支払期日であります。また、借入金及び社債は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で4年10ヵ月後であります。

### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

#### ① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、債権管理規程に従い、営業債権及び長期貸付金について、各事業部門における営業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

当期の連結決算日における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額によって表わされております。

#### ② 市場リスク（金利等の変動リスク）

当社グループは、有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、かつ、取引先企業との関係を勘案して保有状況を見直しております。

また、デリバティブ取引については行わない方針であります。

#### ③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,456,845	1,456,845	—
(2) 受取手形及び売掛金	8,411,013	8,411,013	—
(3) 投資有価証券	2,189,831	2,189,831	—
(4) 関係会社株式	896,208	896,208	—
資産計	12,953,899	12,953,899	—
(1) 支払手形及び買掛金	2,340,241	2,340,241	—
(2) 短期借入金	545,000	545,000	—
(3) 社債（1年以内償還予定の社債を含む）	1,700,000	1,706,483	6,483
(4) 長期借入金（1年以内返済予定の長期借入金を含む）	240,000	241,260	1,260
負債計	4,825,241	4,832,984	7,743
デリバティブ取引	—	—	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

### 資 産

#### (1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### (2) 受取手形及び売掛金

これらの時価については、当該受取手形及び売掛金がすべて1年以内の回収期日であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### (3) 投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、その他については取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

なお、当連結会計年度末において債権は保有しておりません。

#### (4) 関係会社株式

これらの時価については、取引所の価格によっております。

### 負 債

#### (1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらの時価については、当該支払手形及び買掛金並びに短期借入金がすべて1年以内の償還期日であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### (3) 社債（1年以内償還予定の社債を含む）

当社の発行する社債の時価は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金を、新規に同様の発行を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、当連結会計年度末において市場価格のあるものは該当ありません。

#### (4) 長期借入金（1年以内返済予定の長期借入金を含む）

これらの時価については、元利金を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

### デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（千円）
非上場株式	281,084

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、(3) 投資有価証券及び(4) 関係会社株式には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,456,845	—	—	—
受取手形及び売掛金	8,411,013	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他	—	56,136	15,552	—
合計	9,867,859	56,136	15,552	—

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)  
前連結会計年度(平成22年3月31日)

1 その他有価証券

区分	前連結会計年度 平成22年3月31日		
	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	2,909,772	2,246,454	663,317
② その他	147,342	121,145	26,196
小計	3,057,114	2,367,600	689,514
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	12,849	15,691	△2,841
② その他	99,571	127,416	△27,844
小計	112,421	143,108	△30,686
合計	3,169,535	2,510,708	658,827

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額195,248千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成23年3月31日)

1 その他有価証券

区分	当連結会計年度 平成23年3月31日		
	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	2,423,348	1,755,933	667,414
② その他	109,733	91,275	18,457
小計	2,533,081	1,847,208	685,872
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	429,915	476,762	△46,847
② その他	123,043	144,274	△21,231
小計	552,959	621,037	△68,078
合計	3,086,040	2,468,246	617,793

(注) 1 非上場株式等(連結貸借対照表計上額281,084千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。  
2 減損処理に当たっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30~50%下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額については減損処理を行っております。  
なお、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損を45,569千円計上しております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引及びヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引 デリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。	ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引及びヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引 同左



## (退職給付関係)

前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日																																																																																
<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、退職一時金制度と確定給付型の制度として外部拠出の適格退職年金制度を併用しております。また、連結子会社は退職一時金制度を採用しており、一部の連結子会社は退職一時金制度と退職金共済制度を併用しております。</p> <p>2 退職給付債務に関する事項 (平成22年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">イ 退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">△1,435,538千円</td> </tr> <tr> <td>ロ 年金資産</td> <td style="text-align: right;">490,465千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>ハ 未積立退職給付債務 (イ+ロ)</td> <td style="text-align: right;">△945,073千円</td> </tr> <tr> <td>ニ 未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">196,502千円</td> </tr> <tr> <td>ホ 貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ)</td> <td style="text-align: right;">△748,570千円</td> </tr> <tr> <td>へ 前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">246,503千円</td> </tr> <tr> <td>ト 退職給付引当金(ホーへ)</td> <td style="text-align: right;">△995,074千円</td> </tr> </table> <p>(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。</p> <p>3 退職給付費用の内訳 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">イ 勤務費用</td> <td style="text-align: right;">108,171千円</td> </tr> <tr> <td>ロ 利息費用</td> <td style="text-align: right;">21,119千円</td> </tr> <tr> <td>ハ 期待運用収益(減算)</td> <td style="text-align: right;">△9,841千円</td> </tr> <tr> <td>ニ 数理計算上の差異の費用 処理額</td> <td style="text-align: right;">3,037千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>ホ 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ)</td> <td style="text-align: right;">122,486千円</td> </tr> </table> <p>(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付引当金繰入額は、「イ 勤務費用」に含めております。</p> <p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">イ 退職給付見込額の 期間配分方法</td> <td style="width: 30%; text-align: center;">期間定額基準</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>ロ 割引率</td> <td style="text-align: center;">1.389%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ハ 期待運用収益率</td> <td style="text-align: center;">0.5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ニ 数理計算上の差異の 処理年数</td> <td style="text-align: center;">発生年度の翌連結会 計年度から5年定額 法</td> <td></td> </tr> </table>	イ 退職給付債務	△1,435,538千円	ロ 年金資産	490,465千円	<hr/>		ハ 未積立退職給付債務 (イ+ロ)	△945,073千円	ニ 未認識数理計算上の差異	196,502千円	ホ 貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ)	△748,570千円	へ 前払年金費用	246,503千円	ト 退職給付引当金(ホーへ)	△995,074千円	イ 勤務費用	108,171千円	ロ 利息費用	21,119千円	ハ 期待運用収益(減算)	△9,841千円	ニ 数理計算上の差異の費用 処理額	3,037千円	<hr/>		ホ 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ)	122,486千円	イ 退職給付見込額の 期間配分方法	期間定額基準		ロ 割引率	1.389%		ハ 期待運用収益率	0.5%		ニ 数理計算上の差異の 処理年数	発生年度の翌連結会 計年度から5年定額 法		<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p style="text-align: center;">同左</p> <p>2 退職給付債務に関する事項 (平成23年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">イ 退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">△1,421,864千円</td> </tr> <tr> <td>ロ 年金資産</td> <td style="text-align: right;">390,918千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>ハ 未積立退職給付債務 (イ+ロ)</td> <td style="text-align: right;">△1,030,945千円</td> </tr> <tr> <td>ニ 未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">276,916千円</td> </tr> <tr> <td>ホ 貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ)</td> <td style="text-align: right;">△754,029千円</td> </tr> <tr> <td>へ 前払年金費用</td> <td style="text-align: right;">232,726千円</td> </tr> <tr> <td>ト 退職給付引当金(ホーへ)</td> <td style="text-align: right;">△986,756千円</td> </tr> </table> <p>(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。</p> <p>3 退職給付費用の内訳 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">イ 勤務費用</td> <td style="text-align: right;">108,413千円</td> </tr> <tr> <td>ロ 利息費用</td> <td style="text-align: right;">18,837千円</td> </tr> <tr> <td>ハ 期待運用収益(減算)</td> <td style="text-align: right;">△2,452千円</td> </tr> <tr> <td>ニ 数理計算上の差異の費用 処理額</td> <td style="text-align: right;">32,756千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>ホ 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ)</td> <td style="text-align: right;">157,554千円</td> </tr> </table> <p>(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付引当金繰入額は、「イ 勤務費用」に含めております。</p> <p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">イ 退職給付見込額の 期間配分方法</td> <td style="width: 30%; text-align: center;">期間定額基準</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>ロ 割引率</td> <td style="text-align: center;">1.255%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ハ 期待運用収益率</td> <td style="text-align: center;">0.5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ニ 数理計算上の差異の 処理年数</td> <td style="text-align: center;">発生年度の翌連結会 計年度から5年定額 法</td> <td></td> </tr> </table>	イ 退職給付債務	△1,421,864千円	ロ 年金資産	390,918千円	<hr/>		ハ 未積立退職給付債務 (イ+ロ)	△1,030,945千円	ニ 未認識数理計算上の差異	276,916千円	ホ 貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ)	△754,029千円	へ 前払年金費用	232,726千円	ト 退職給付引当金(ホーへ)	△986,756千円	イ 勤務費用	108,413千円	ロ 利息費用	18,837千円	ハ 期待運用収益(減算)	△2,452千円	ニ 数理計算上の差異の費用 処理額	32,756千円	<hr/>		ホ 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ)	157,554千円	イ 退職給付見込額の 期間配分方法	期間定額基準		ロ 割引率	1.255%		ハ 期待運用収益率	0.5%		ニ 数理計算上の差異の 処理年数	発生年度の翌連結会 計年度から5年定額 法	
イ 退職給付債務	△1,435,538千円																																																																																
ロ 年金資産	490,465千円																																																																																
<hr/>																																																																																	
ハ 未積立退職給付債務 (イ+ロ)	△945,073千円																																																																																
ニ 未認識数理計算上の差異	196,502千円																																																																																
ホ 貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ)	△748,570千円																																																																																
へ 前払年金費用	246,503千円																																																																																
ト 退職給付引当金(ホーへ)	△995,074千円																																																																																
イ 勤務費用	108,171千円																																																																																
ロ 利息費用	21,119千円																																																																																
ハ 期待運用収益(減算)	△9,841千円																																																																																
ニ 数理計算上の差異の費用 処理額	3,037千円																																																																																
<hr/>																																																																																	
ホ 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ)	122,486千円																																																																																
イ 退職給付見込額の 期間配分方法	期間定額基準																																																																																
ロ 割引率	1.389%																																																																																
ハ 期待運用収益率	0.5%																																																																																
ニ 数理計算上の差異の 処理年数	発生年度の翌連結会 計年度から5年定額 法																																																																																
イ 退職給付債務	△1,421,864千円																																																																																
ロ 年金資産	390,918千円																																																																																
<hr/>																																																																																	
ハ 未積立退職給付債務 (イ+ロ)	△1,030,945千円																																																																																
ニ 未認識数理計算上の差異	276,916千円																																																																																
ホ 貸借対照表計上額純額 (ハ+ニ)	△754,029千円																																																																																
へ 前払年金費用	232,726千円																																																																																
ト 退職給付引当金(ホーへ)	△986,756千円																																																																																
イ 勤務費用	108,413千円																																																																																
ロ 利息費用	18,837千円																																																																																
ハ 期待運用収益(減算)	△2,452千円																																																																																
ニ 数理計算上の差異の費用 処理額	32,756千円																																																																																
<hr/>																																																																																	
ホ 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ)	157,554千円																																																																																
イ 退職給付見込額の 期間配分方法	期間定額基準																																																																																
ロ 割引率	1.255%																																																																																
ハ 期待運用収益率	0.5%																																																																																
ニ 数理計算上の差異の 処理年数	発生年度の翌連結会 計年度から5年定額 法																																																																																

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成17年ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 7名 当社監査役 3名 当社執行役員 3名 当社従業員 166名 当社子会社の取締役 3名 当社子会社の従業員 34名
ストック・オプション数	普通株式 238,000株
付与日	平成17年8月24日
権利確定条件	付与日以降、権利確定日まで継続して勤務していること。
対象勤務期間	対象期間の定めはありません。
権利行使期間	平成19年7月1日から平成22年6月30日まで

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成22年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

①ストック・オプションの数

	平成17年ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	217,000
権利確定	—
権利行使	—
失効	—
未行使残	217,000

②単価情報

	平成17年ストック・オプション
権利行使価格 (円)	912
行使時平均株価 (円)	—
公正な評価単価(付与日) (円)	—

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）  
 ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) ストック・オプションの内容

	平成17年ストック・オプション
付与対象者の区分及び数	当社取締役 7名 当社監査役 3名 当社執行役員 3名 当社従業員 166名 当社子会社の取締役 3名 当社子会社の従業員 34名
ストック・オプション数	普通株式 238,000株
付与日	平成17年8月24日
権利確定条件	付与日以降、権利確定日まで継続して勤務していること。
対象勤務期間	対象期間の定めはありません。
権利行使期間	平成19年7月1日から平成22年6月30日まで

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（平成23年3月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

①ストック・オプションの数

	平成17年ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	—
付与	—
失効	—
権利確定	—
未確定残	—
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	217,000
権利確定	—
権利行使	—
失効	217,000
未行使残	—

②単価情報

	平成17年ストック・オプション
権利行使価格 (円)	912
行使時平均株価 (円)	—
公正な評価単価 (付与日) (円)	—

## (税効果会計関係)

前連結会計年度 平成22年3月31日	当連結会計年度 平成23年3月31日																																																																																																																																																
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">91,729千円</td></tr> <tr><td>固定資産撤去費用引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">8,015千円</td></tr> <tr><td>減価償却損金算入限度超過額</td><td style="text-align: right;">60,050千円</td></tr> <tr><td>減損損失損金不算入額</td><td style="text-align: right;">259,898千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損損金不算入額</td><td style="text-align: right;">116,200千円</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損損金不算入額</td><td style="text-align: right;">50,094千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">17,144千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">298,078千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">24,674千円</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">558千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">66,066千円</td></tr> <tr><td><hr/></td><td></td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">992,512千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△355,002千円</td></tr> <tr><td><hr/></td><td></td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right;">637,510千円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">247,415千円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">267,927千円</td></tr> <tr><td><hr/></td><td></td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right;">515,342千円</td></tr> <tr><td><hr/></td><td></td></tr> <tr><td>繰延税金資産純額</td><td style="text-align: right;">122,168千円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産</td><td style="text-align: right;">146,193千円</td></tr> <tr><td>固定資産</td><td style="text-align: right;">26,118千円</td></tr> <tr><td>固定負債</td><td style="text-align: right;">50,143千円</td></tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.69%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">13.37%</td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">9.01%</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">△5.83%</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△11.88%</td></tr> <tr><td>連結子会社の清算所得非課税額</td><td style="text-align: right;">13.80%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1.78%</td></tr> <tr><td><hr/></td><td></td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">60.94%</td></tr> </table>	賞与引当金損金不算入額	91,729千円	固定資産撤去費用引当金損金不算入額	8,015千円	減価償却損金算入限度超過額	60,050千円	減損損失損金不算入額	259,898千円	投資有価証券評価損損金不算入額	116,200千円	ゴルフ会員権評価損損金不算入額	50,094千円	貸倒引当金損金不算入額	17,144千円	退職給付引当金損金不算入額	298,078千円	役員退職慰労引当金損金不算入額	24,674千円	繰越欠損金	558千円	その他	66,066千円	<hr/>		繰延税金資産小計	992,512千円	評価性引当額	△355,002千円	<hr/>		繰延税金資産計	637,510千円	繰延税金負債		固定資産圧縮積立金	247,415千円	その他有価証券評価差額金	267,927千円	<hr/>		繰延税金負債計	515,342千円	<hr/>		繰延税金資産純額	122,168千円	流動資産	146,193千円	固定資産	26,118千円	固定負債	50,143千円	法定実効税率	40.69%	(調整)		住民税均等割	13.37%	交際費等永久に損金に算入されない項目	9.01%	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△5.83%	評価性引当額	△11.88%	連結子会社の清算所得非課税額	13.80%	その他	1.78%	<hr/>		税効果会計適用後の法人税等の負担率	60.94%	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">83,921千円</td></tr> <tr><td>減価償却損金算入限度超過額</td><td style="text-align: right;">60,353千円</td></tr> <tr><td>減損損失損金不算入額</td><td style="text-align: right;">258,196千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損損金不算入額</td><td style="text-align: right;">134,267千円</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損損金不算入額</td><td style="text-align: right;">52,231千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">28,643千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">305,111千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">25,002千円</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">27,038千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">45,864千円</td></tr> <tr><td><hr/></td><td></td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">1,020,630千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△367,132千円</td></tr> <tr><td><hr/></td><td></td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right;">653,498千円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債</td><td></td></tr> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">232,973千円</td></tr> <tr><td>資産除去費用</td><td style="text-align: right;">10,879千円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">252,335千円</td></tr> <tr><td><hr/></td><td></td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right;">496,188千円</td></tr> <tr><td><hr/></td><td></td></tr> <tr><td>繰延税金資産純額</td><td style="text-align: right;">157,309千円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産</td><td style="text-align: right;">124,685千円</td></tr> <tr><td>固定資産</td><td style="text-align: right;">32,623千円</td></tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">40.69%</td></tr> <tr><td>(調整)</td><td></td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">13.44%</td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">11.23%</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">△5.81%</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">4.28%</td></tr> <tr><td>子会社の法定実効税率変更による影響額</td><td style="text-align: right;">△2.71%</td></tr> <tr><td>連結子会社の清算に係る影響額</td><td style="text-align: right;">△10.33%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">△2.67%</td></tr> <tr><td><hr/></td><td></td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">48.12%</td></tr> </table>	賞与引当金損金不算入額	83,921千円	減価償却損金算入限度超過額	60,353千円	減損損失損金不算入額	258,196千円	投資有価証券評価損損金不算入額	134,267千円	ゴルフ会員権評価損損金不算入額	52,231千円	貸倒引当金損金不算入額	28,643千円	退職給付引当金損金不算入額	305,111千円	役員退職慰労引当金損金不算入額	25,002千円	資産除去債務	27,038千円	その他	45,864千円	<hr/>		繰延税金資産小計	1,020,630千円	評価性引当額	△367,132千円	<hr/>		繰延税金資産計	653,498千円	繰延税金負債		固定資産圧縮積立金	232,973千円	資産除去費用	10,879千円	その他有価証券評価差額金	252,335千円	<hr/>		繰延税金負債計	496,188千円	<hr/>		繰延税金資産純額	157,309千円	流動資産	124,685千円	固定資産	32,623千円	法定実効税率	40.69%	(調整)		住民税均等割	13.44%	交際費等永久に損金に算入されない項目	11.23%	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△5.81%	評価性引当額	4.28%	子会社の法定実効税率変更による影響額	△2.71%	連結子会社の清算に係る影響額	△10.33%	その他	△2.67%	<hr/>		税効果会計適用後の法人税等の負担率	48.12%
賞与引当金損金不算入額	91,729千円																																																																																																																																																
固定資産撤去費用引当金損金不算入額	8,015千円																																																																																																																																																
減価償却損金算入限度超過額	60,050千円																																																																																																																																																
減損損失損金不算入額	259,898千円																																																																																																																																																
投資有価証券評価損損金不算入額	116,200千円																																																																																																																																																
ゴルフ会員権評価損損金不算入額	50,094千円																																																																																																																																																
貸倒引当金損金不算入額	17,144千円																																																																																																																																																
退職給付引当金損金不算入額	298,078千円																																																																																																																																																
役員退職慰労引当金損金不算入額	24,674千円																																																																																																																																																
繰越欠損金	558千円																																																																																																																																																
その他	66,066千円																																																																																																																																																
<hr/>																																																																																																																																																	
繰延税金資産小計	992,512千円																																																																																																																																																
評価性引当額	△355,002千円																																																																																																																																																
<hr/>																																																																																																																																																	
繰延税金資産計	637,510千円																																																																																																																																																
繰延税金負債																																																																																																																																																	
固定資産圧縮積立金	247,415千円																																																																																																																																																
その他有価証券評価差額金	267,927千円																																																																																																																																																
<hr/>																																																																																																																																																	
繰延税金負債計	515,342千円																																																																																																																																																
<hr/>																																																																																																																																																	
繰延税金資産純額	122,168千円																																																																																																																																																
流動資産	146,193千円																																																																																																																																																
固定資産	26,118千円																																																																																																																																																
固定負債	50,143千円																																																																																																																																																
法定実効税率	40.69%																																																																																																																																																
(調整)																																																																																																																																																	
住民税均等割	13.37%																																																																																																																																																
交際費等永久に損金に算入されない項目	9.01%																																																																																																																																																
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△5.83%																																																																																																																																																
評価性引当額	△11.88%																																																																																																																																																
連結子会社の清算所得非課税額	13.80%																																																																																																																																																
その他	1.78%																																																																																																																																																
<hr/>																																																																																																																																																	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	60.94%																																																																																																																																																
賞与引当金損金不算入額	83,921千円																																																																																																																																																
減価償却損金算入限度超過額	60,353千円																																																																																																																																																
減損損失損金不算入額	258,196千円																																																																																																																																																
投資有価証券評価損損金不算入額	134,267千円																																																																																																																																																
ゴルフ会員権評価損損金不算入額	52,231千円																																																																																																																																																
貸倒引当金損金不算入額	28,643千円																																																																																																																																																
退職給付引当金損金不算入額	305,111千円																																																																																																																																																
役員退職慰労引当金損金不算入額	25,002千円																																																																																																																																																
資産除去債務	27,038千円																																																																																																																																																
その他	45,864千円																																																																																																																																																
<hr/>																																																																																																																																																	
繰延税金資産小計	1,020,630千円																																																																																																																																																
評価性引当額	△367,132千円																																																																																																																																																
<hr/>																																																																																																																																																	
繰延税金資産計	653,498千円																																																																																																																																																
繰延税金負債																																																																																																																																																	
固定資産圧縮積立金	232,973千円																																																																																																																																																
資産除去費用	10,879千円																																																																																																																																																
その他有価証券評価差額金	252,335千円																																																																																																																																																
<hr/>																																																																																																																																																	
繰延税金負債計	496,188千円																																																																																																																																																
<hr/>																																																																																																																																																	
繰延税金資産純額	157,309千円																																																																																																																																																
流動資産	124,685千円																																																																																																																																																
固定資産	32,623千円																																																																																																																																																
法定実効税率	40.69%																																																																																																																																																
(調整)																																																																																																																																																	
住民税均等割	13.44%																																																																																																																																																
交際費等永久に損金に算入されない項目	11.23%																																																																																																																																																
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△5.81%																																																																																																																																																
評価性引当額	4.28%																																																																																																																																																
子会社の法定実効税率変更による影響額	△2.71%																																																																																																																																																
連結子会社の清算に係る影響額	△10.33%																																																																																																																																																
その他	△2.67%																																																																																																																																																
<hr/>																																																																																																																																																	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	48.12%																																																																																																																																																

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末(平成23年3月31日)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

店舗、事務所等の不動産賃貸借契約及び賃貸用不動産の借地契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

店舗、事務所等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等は、使用見込期間を6～18年と見積もり、割引率は当該使用見込期間に見合う国債の利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

賃貸用不動産の借地契約に伴う原状回復義務等は、使用見込期間を当該契約の期間に応じて45年と見積もり、割引率は2.308%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

(単位：千円)

期首残高(注)	65,234
時の経過による調整額	1,215
期末残高	<u>66,449</u>

(注) 当連結会計年度より「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

当社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル(土地を含む。)を有しております。平成22年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は307,046千円(賃貸収益は売上高、賃貸費用は売上原価及び販管費に計上。)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表上額、当期増減額及び時価は次のとおりであります。

連結貸借対照表計上額(千円)			当連結会計年度末の時価 (千円)
前連結会計年度末残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
4,626,852	189,012	4,815,864	6,392,698

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。  
2 当期増減額のうち、主な増加額は不動産取得(306,719千円)であり、主な減少額は減価償却費(112,722千円)であります。  
3 当連結会計年度末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(追加情報)

当連結会計年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第20号 平成20年11月28日)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第23号 平成20年11月28日)を適用しております。

当連結会計年度(自平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル(土地を含む。)を有しております。平成23年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は313,790千円(賃貸収益は売上高、賃貸費用は売上原価及び販管費に計上。)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表上額、当期増減額及び時価は次のとおりであります。

連結貸借対照表計上額(千円)			当連結会計年度末の時価 (千円)
前連結会計年度末残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
4,815,864	474,131	5,289,996	6,825,428

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。  
2 当期増減額のうち、主な増加額は不動産取得(570,998千円)であり、主な減少額は減価償却費(104,725千円)であります。  
3 当連結会計年度末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

	石油関連 事業 (千円)	外食事業 (千円)	不動産事業 (千円)	計 (千円)	消 去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
I 売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	57,155,779	758,538	507,542	58,421,860	—	58,421,860
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	58,597	58,597	△58,597	—
計	57,155,779	758,538	566,140	58,480,458	△58,597	58,421,860
営業費用	56,859,343	789,779	255,803	57,904,927	311,708	58,216,635
営業利益又は営業損失(△)	296,436	△31,241	310,336	575,530	△370,305	205,224
II 資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出						
資産	14,124,040	328,053	5,563,137	20,015,231	2,811,819	22,827,050
減価償却費	121,483	25,012	129,943	276,439	16,164	292,604
減損損失	5,434	1,274	—	6,709	—	6,709
資本的支出	322,103	32,860	323,817	678,781	—	678,781

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な製品

(1) 石油関連事業……ガソリン、灯油、軽油、重油、潤滑油、石油化学製品、液化石油ガス、ガス関連商品、自動車関連商品、その他

(2) 外食事業……ケンタッキーフライドチキン店及びタリーズコーヒー店のフランチャイズ運営

(3) 不動産事業……不動産の賃貸

3 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用（370,305千円）の主なものは、総務部、経理部等管理部門に係る費用であります。

4 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産（2,811,819千円）の主なものは、親会社での余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門にかかる資産等であります。

5 減価償却費及び資本的支出には長期前払費用と同費用に係る償却額が含まれております。

6 会計方針の変更

連結財務諸表における子会社及び関連会社の範囲決定に関する適用指針

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」1.（2）に記載のとおり、当連結会計年度より

「連結財務諸表における子会社および関連会社の範囲の決定に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第22号 平成20年5月13日）を適用しております。この変更に伴う当連結会計年度の損益に与える影響はありません。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める本国の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成範囲のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象になっているものであります。

当社は本社に製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部は、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントより構成されており、「石油関連事業」、「外食事業」及び「不動産事業」の3つを報告セグメントとしております。

「石油関連事業」は、ガソリン、灯油、軽油、重油等の燃料油及び潤滑油、石油化学製品、液化石油ガス、SSを主とする作業、自動車関連製品の販売を行っております。「外食事業」は、ケンタッキーフライドチキン店及びタリーズコーヒー店のフランチャイズ運営を行っております。「不動産事業」では不動産の賃貸を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益又は営業損失ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

改正前の規定等による前年度のセグメント情報が、改正後の規定に準拠して作成する前年度のセグメント情報と同様でありますので記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単価：千円）

	報告セグメント				調整額 (注1)	連結 財務諸表 計上額 (注2)
	石油関連 事業	外食事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客に対する売上高	62,457,193	782,407	508,996	63,748,597	—	63,748,597
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	62,633	62,633	△62,633	—
計	62,457,193	782,407	571,630	63,811,231	△62,633	63,748,597
セグメント利益又は損失(△)	340,421	△23,320	287,839	604,941	△363,574	241,366
セグメント資産	15,799,049	315,431	5,706,333	21,820,813	1,870,479	23,691,293
その他の項目						
減価償却費	124,770	27,710	125,616	278,096	10,782	288,879
減損損失	21,154	11,239	—	32,393	—	32,393
持分法適用会社への投資額	—	—	—	—	100,932	100,932
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	644,276	28,064	581,102	1,253,443	8,107	1,261,550

(注) 1. セグメント利益の調整額△363,574千円は、セグメント間取引消去△62,633千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△300,940千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務、経理等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。



**【関連情報】**

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一のため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

全セグメントの売上高が連結損益計算書の売上高に占める本邦の割合が90%を超えているため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

全セグメントの資産の金額が連結貸借対照表の資産に占める本邦の割合が90%を超えているため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

(単位：千円)

	石油関連 事業	外食事業	不動産事業	合計	調整額	連結 損益計算書 計上額
減損損失	21,154	11,239	—	32,393	—	32,393

**【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する残高】**

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

重要性が乏しいために記載を省略しております。

**【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】**

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

(追加情報)

当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

関連当事者との取引

1 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合 (%)	関連当事者との関係	取引内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の関係会社	新日本石油株式会社	東京都港区	139,437,385	石油製品の製造及び販売	(所有) 直接 16.9	石油製品の仕入 転籍 1名	営業取引 商品の仕入	41,373,750	買掛金	681,681
							SSの賃借	443,752		
							支払手数料	309,120	未払金	21,367
							商品納入代 行 他	169,162	売掛金	10,664
							営業取引以外の 取引 仕入割引	29,536	—	

(注) 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりませんが、債権債務の残高には消費税等を含めて記載しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- ① 商品の仕入及びSSの賃借料は、関連を有しない他の一般特約店と同様の条件により決定しております。
- ② 買掛金については、建物、土地及び投資有価証券並びに関係会社株式1,368,587千円を担保に供しております。
- ③ 支払手数料は、関連を有しない他の一般特約店と同様の条件により決定しております。
- ④ 商品納入代行料の決定は、基本条件にその年度の条件を勘案して、双方交渉により決定しております。
- ⑤ 仕入割引は、関連を有しない他の一般特約店と同様の条件により決定しております。

2 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引は重要性の判断基準に照らし、取引金額及び債権債務の残高が開示基準に満たないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

関連当事者との取引

1 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合 (%)	関連当事者との関係	取引内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の関係会社の子会社	J X日鉱日石エネルギー株式会社	東京都千代田区	139,437,385	石油製品の精製及び販売	(所有) 直接 16.9	石油製品の仕入 転籍 1名	営業取引			
							商品の仕入	46,422,310	買掛金	1,239,114
							SSの賃借	418,170		
							支払手数料	339,743	未払金	22,305
							商品納入代引他	190,124	売掛金	11,892
営業取引以外の取引										
仕入割引	25,971	—								

(注) イ. J X日鉱日石エネルギー株式会社は、平成22年7月1日付で新日本石油株式会社より商号を変更いたしております。

ロ. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりませんが、債権債務の残高には消費税等を含めて記載しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- ① 商品の仕入及びSSの賃借料は、関連を有しない他の一般特約店と同様の条件により決定しております。
- ② 買掛金については、建物、土地及び投資有価証券並びに関係会社株式1,442,189千円を担保に供しております。
- ③ 支払手数料は、関連を有しない他の一般特約店と同様の条件により決定しております。
- ④ 商品納入代行料の決定は、基本条件にその年度の条件を勘案して、双方交渉により決定しております。
- ⑤ 仕入割引は、関連を有しない他の一般特約店と同様の条件により決定しております。

2 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引は重要性の判断基準に照らし、取引金額及び債権債務の残高が開示基準に満たないため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
1株当たり純資産額	2,361.11円	2,371.60円
1株当たり当期純利益	17.40円	22.29円
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益 については、調整計算の結果、1株当 たり当期純利益が希薄化しないため記 載していません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益 については、調整計算の結果、1株当 たり当期純利益が希薄化しないため記 載していません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当連結会計年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (千円)	117,029	149,868
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	117,029	149,868
期中平均株式数 (株)	6,726,662	6,722,191
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり当期純利益の算定に含めなかった 潜在株式の概要	平成17年6月29日定時株主総会 決議ストックオプション (新株予約権 217個) 普通株式 217千株	平成17年6月29日定時株主総会 決議ストックオプション (新株予約権 217個) 普通株式 217千株

## (重要な後発事象)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
該当事項はありません。	該当事項はありません。

## ⑤【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
日新商事株式会社	第14回無担保社債	H18. 6. 30	300,000	300,000 (300,000)	1.73000	なし	H23. 6. 30
日新商事株式会社	第16回無担保社債	H19. 8. 27	100,000	100,000	1.82000	なし	H24. 8. 27
日新商事株式会社	第17回無担保社債	H19. 8. 31	100,000	100,000	1.60000	なし	H24. 8. 31
日新商事株式会社	第18回無担保社債	H19. 8. 31	100,000 (40,000)	60,000 (40,000)	1.40000	なし	H24. 8. 31
日新商事株式会社	第19回無担保社債	H20. 8. 6	100,000	100,000	1.54000	なし	H25. 8. 6
日新商事株式会社	第20回無担保社債	H21. 2. 27	160,000 (40,000)	120,000 (40,000)	0.94000	なし	H26. 2. 28
日新商事株式会社	第21回無担保社債	H21. 6. 30	180,000 (40,000)	140,000 (40,000)	1.05000	なし	H26. 6. 30
日新商事株式会社	第22回無担保社債	H21. 9. 28	100,000	100,000	0.85000	なし	H24. 9. 28
日新商事株式会社	第23回無担保社債	H22. 4. 30	—	180,000 (40,000)	0.80000	なし	H27. 4. 30
日新商事株式会社	第24回無担保社債	H23. 1. 30	—	300,000	0.92000	なし	H28. 1. 29
日新商事株式会社	第25回無担保社債	H23. 3. 31	—	100,000	0.72000	なし	H26. 3. 31
日新商事株式会社	第26回無担保社債	H23. 3. 31	—	100,000 (34,000)	0.63000	なし	H26. 3. 31
合計	—	—	1,140,000 (120,000)	1,700,000 (494,000)	—	—	—

(注) 1 ( ) 内書は1年以内の償還予定であります。

2 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
494,000	474,000	352,000	60,000	320,000

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	645,000	545,000	1.480	—
1年以内に返済予定の長期借入金	120,000	120,000	2.390	—
1年以内に返済予定のリース債務	—	—	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	240,000	120,000	2.463	平成25年
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	—	—	—	—
その他有利子負債（預り保証金）	526,926	525,965	0.883	—
合計	1,531,926	1,310,965	—	—

(注) 1 平均利率は期末借入金残高に対する加重平均によって算出しております。

2 長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	90,000	30,000	—	—

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当該連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	第2四半期 自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	第3四半期 自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	第4四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高 (千円)	14,775,601	15,852,870	16,135,624	16,984,500
税金等調整前四半期純利益 金額 (千円)	54,992	92,762	91,456	49,653
四半期純利益金額 (千円)	27,171	43,155	46,632	32,908
1株当たり四半期純利益金 額 (円)	4.04	6.42	6.94	4.89

2 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年 3月31日)	当事業年度 (平成23年 3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,993,381	1,178,257
受取手形	※2 732,641	※2 871,721
売掛金	※2 6,461,416	※2 7,003,255
商品	390,648	420,652
前渡金	2,497	—
前払費用	80,042	69,700
繰延税金資産	169,089	109,985
関係会社短期貸付金	4,328	—
未収入金	12,486	16,059
その他	31,486	39,517
貸倒引当金	△33,500	△25,700
流動資産合計	9,844,518	9,683,450
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,499,192	5,880,142
減価償却累計額	△2,932,847	△3,079,554
建物（純額）	※1 2,566,344	※1 2,800,588
構築物	422,110	454,060
減価償却累計額	△311,538	△332,238
構築物（純額）	110,572	121,821
機械及び装置	810,398	850,447
減価償却累計額	△638,694	△672,100
機械及び装置（純額）	171,703	178,347
車両運搬具	70,437	68,974
減価償却累計額	△55,126	△57,280
車両運搬具（純額）	15,310	11,693
工具、器具及び備品	320,372	342,642
減価償却累計額	△253,181	△281,036
工具、器具及び備品（純額）	67,191	61,605
土地	※1 4,616,152	※1 5,296,298
リース資産	12,420	12,420
減価償却累計額	△4,664	△8,674
リース資産（純額）	7,756	3,746
建設仮勘定	3,450	—
有形固定資産合計	7,558,482	8,474,100
無形固定資産		
借地権	105,504	105,504
ソフトウェア	12,065	22,953
電話加入権	25,151	20,306
無形固定資産合計	142,721	148,764



(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	※1 2,606,597	※1 2,328,725
関係会社株式	※1 857,591	※1 1,050,805
出資金	6,846	6,846
従業員長期貸付金	25,004	16,859
関係会社長期貸付金	25,671	15,000
破産更生債権等	97,078	84,875
長期前払費用	15,815	18,555
前払年金費用	246,503	232,726
差入保証金	257,725	256,761
会員権	81,766	81,766
繰延税金資産	—	15,382
その他	505	490
貸倒引当金	△114,210	△95,790
投資その他の資産合計	4,106,895	4,013,004
固定資産合計	11,808,098	12,635,868
資産合計	21,652,617	22,319,319
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	137,038	140,557
買掛金	※1, ※2 1,431,226	※1, ※2 1,860,263
短期借入金	※1 520,000	※1 520,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 120,000	※1 120,000
1年内償還予定の社債	120,000	494,000
リース債務	4,783	3,352
未払金	557,970	507,885
未払費用	37,876	37,845
未払法人税等	109,405	62,749
未払消費税等	27,596	15,597
前受金	20,424	18,222
預り金	119,453	120,529
賞与引当金	200,000	180,000
役員賞与引当金	11,000	11,500
固定資産撤去費用引当金	19,700	—
その他	16,295	7,358
流動負債合計	3,452,771	4,099,861

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<b>固定負債</b>		
社債	1,020,000	1,206,000
長期借入金	※1 240,000	※1 120,000
リース債務	3,933	580
繰延税金負債	34,412	—
退職給付引当金	915,700	929,945
役員退職慰労引当金	53,676	53,676
預り保証金	830,729	831,337
資産除去債務	—	66,449
その他	8,812	1,454
固定負債合計	3,107,265	3,209,444
負債合計	6,560,037	7,309,305
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,624,000	3,624,000
資本剰余金		
資本準備金	3,277,952	3,277,952
その他資本剰余金	2,554	2,554
資本剰余金合計	3,280,507	3,280,507
利益剰余金		
利益準備金	577,658	577,658
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	278,522	271,144
別途積立金	6,755,000	6,755,000
繰越利益剰余金	829,391	776,894
利益剰余金合計	8,440,572	8,380,698
自己株式	△643,318	△643,318
株主資本合計	14,701,760	14,641,886
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	390,819	368,127
評価・換算差額等合計	390,819	368,127
純資産合計	15,092,580	15,010,013
負債純資産合計	21,652,617	22,319,319

## ②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高		
商品売上高	54,609,327	59,598,648
不動産賃貸料	542,698	549,153
売上高合計	55,152,025	60,147,802
売上原価		
商品売上原価		
商品期首たな卸高	357,465	390,648
当期商品仕入高	※2 46,913,496	51,728,717
軽油引取税	2,383,149	2,590,081
合計	49,654,111	54,709,446
他勘定振替高	※1 32,121	※1 37,005
商品期末たな卸高	390,648	420,652
商品売上原価	49,231,341	54,251,788
不動産賃貸原価	215,143	232,951
売上原価合計	49,446,484	54,484,740
売上総利益	5,705,540	5,663,062
販売費及び一般管理費		
販売諸費	153,554	158,716
支払手数料	586,291	597,668
広告宣伝費	90,573	104,064
貸倒引当金繰入額	8,624	—
貸倒損失	—	1,367
給料及び手当	1,567,501	1,544,139
臨時雇用給	482,883	438,063
法定福利費	286,353	298,459
賞与	198,858	208,632
賞与引当金繰入額	200,000	180,000
役員賞与引当金繰入額	11,000	11,500
退職給付引当金繰入額	112,938	147,676
賃借料	686,237	649,545
水道光熱費	193,926	187,583
減価償却費	161,387	159,744
その他	770,504	786,631
販売費及び一般管理費合計	※1 5,510,635	※1 5,473,792
営業利益	194,905	189,269

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
営業外収益		
受取利息	2,709	1,793
受取配当金	※2 116,051	※2 94,133
仕入割引	※2 29,536	25,971
軽油引取税納税報奨金	44,028	47,302
その他	50,072	45,509
営業外収益合計	242,397	214,710
営業外費用		
支払利息	26,308	21,830
社債利息	16,664	17,198
売上割引	1,887	1,530
社債発行費	5,806	13,660
投資有価証券評価損	—	11,501
その他	12,990	15,652
営業外費用合計	63,657	81,373
経常利益	373,646	322,605
特別利益		
貸倒引当金戻入益	1,300	13,607
固定資産売却益	※3 510	—
関係会社清算損失引当金戻入益	1,100	—
特別利益合計	2,910	13,607
特別損失		
固定資産売却損	※4 696	※4 72
固定資産除却損	※5 3,918	※5 7,509
減損損失	※6 8,324	※6 32,393
固定資産臨時償却費	28,981	—
固定資産撤去費用引当金繰入額	19,700	—
投資有価証券評価損	—	34,068
関係会社清算損	12,368	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	34,419
その他	—	1,130
特別損失合計	73,988	109,593
税引前当期純利益	302,568	226,619
法人税、住民税及び事業税	151,698	127,083
法人税等調整額	△15,320	24,877
法人税等合計	136,377	151,960
当期純利益	166,190	74,658

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>株主資本</b>		
資本金		
前期末残高	3,624,000	3,624,000
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	3,624,000	3,624,000
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	3,277,952	3,277,952
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	3,277,952	3,277,952
その他資本剰余金		
前期末残高	2,554	2,554
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,554	2,554
資本剰余金合計		
前期末残高	3,280,507	3,280,507
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	3,280,507	3,280,507
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	577,658	577,658
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	577,658	577,658
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
前期末残高	300,980	278,522
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の取崩	△22,457	△7,378
当期変動額合計	△22,457	△7,378
当期末残高	278,522	271,144
別途積立金		
前期末残高	6,755,000	6,755,000
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	6,755,000	6,755,000
繰越利益剰余金		
前期末残高	761,822	829,391
当期変動額		
剰余金の配当	△121,079	△134,533
固定資産圧縮積立金の取崩	22,457	7,378
当期純利益	166,190	74,658
当期変動額合計	67,568	△52,496
当期末残高	829,391	776,894

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	8,395,461	8,440,572
当期変動額		
剰余金の配当	△121,079	△134,533
当期純利益	166,190	74,658
当期変動額合計	45,110	△59,874
当期末残高	8,440,572	8,380,698
自己株式		
前期末残高	△643,318	△643,318
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	△643,318	△643,318
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	14,656,649	14,701,760
当期変動額		
剰余金の配当	△121,079	△134,533
当期純利益	166,190	74,658
当期変動額合計	45,110	△59,874
当期末残高	14,701,760	14,641,886
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	251,856	390,819
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	138,963	△22,692
当期変動額合計	138,963	△22,692
当期末残高	390,819	368,127
評価・換算差額等合計		
前期末残高	251,856	390,819
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	138,963	△22,692
当期変動額合計	138,963	△22,692
当期末残高	390,819	368,127
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	14,908,506	15,092,580
当期変動額		
剰余金の配当	△121,079	△134,533
当期純利益	166,190	74,658
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	138,963	△22,692
当期変動額合計	184,074	△82,566
当期末残高	15,092,580	15,010,013

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当事業年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
1 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 ① 時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) ② 時価のないもの 移動平均法による原価法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 同左 (2) その他有価証券 同左
2 たな卸資産の評価基準及び評価方法	メーター商品 総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法） その他の商品 先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）	メーター商品 同左  その他の商品 同左
3 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法、但し平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法によっております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 15～47年 構築物 10～15年 機械及び装置 2～8年 車輛運搬具 2～6年 工具、器具及び備品 2～10年 (2) 無形固定資産（リース資産を除く） 自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。 (3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用することとしております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 (4) 長期前払費用 定額法によっております。	(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 同左 (2) 無形固定資産（リース資産を除く） 同左 (3) リース資産 同左 (4) 長期前払費用 同左

項目	前事業年度 自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日	当事業年度 自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日
4 繰延資産の処理方法	社債発行費 支払時に全額費用処理しております。	社債発行費 同左
5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。	同左
6 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員に対し翌事業年度に支給する賞与に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えて、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。</p> <p>(4) 固定資産撤去費用引当金 将来の固定資産の撤去に伴う費用の発生に備えるため、発生費用見込額を計上しております。</p> <p>(5) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、事業年度末における退職給付債務及び年金資産の額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>また、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>なお、当事業年度末では年金資産の額が企業年金制度に係る退職給付債務の額から未認識数理計算上の差異を控除した金額を超過している状態のため、当該超過額を「前払年金費用」として投資その他の資産に計上しております。</p> <p>(会計方針の変更) 当事業年度より、「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用しております。</p> <p>数理計算上の差異を翌事業年度から償却するため、これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>また、本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額の未処理残高は18,872千円であります。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 役員賞与引当金 同左</p> <p>(4) _____</p> <p>(5) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、事業年度末における退職給付債務及び年金資産の額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>また、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>なお、当事業年度末では年金資産の額が企業年金制度に係る退職給付債務の額から未認識数理計算上の差異を控除した金額を超過している状態のため、当該超過額を「前払年金費用」として投資その他の資産に計上しております。</p>



項目	前事業年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当事業年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
	(6) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく制度廃止時（平成17年6月末）の支給予定額を計上しております。 なお、「役員退職慰労引当金」は、制度適用期間中から在籍している役員の支給予定額であります。	(6) 役員退職慰労引当金 同左
7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

【会計処理の変更】

前事業年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当事業年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
	(資産除去債務に関する会計基準) 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。 これにより、当事業年度の営業利益、経常利益がそれぞれ5,293千円減少し、税引前当期純利益は39,712千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は65,234千円であります。

【表示方法の変更】

前事業年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	当事業年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
損益計算書 前事業年度において、営業外費用に区分掲記しておりましたが「貸倒引当金繰入額」（当事業年度790千円）は、営業外費用の100分の10以下となったために当事業年度において営業外費用の「その他」に含めて表示しております。	

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 平成22年3月31日	当事業年度 平成23年3月31日																																								
<p>※1 借入金等の担保に提供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。</p> <p>(担保提供資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">140,439千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">844,464千円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">557,415千円</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式</td> <td style="text-align: right;">409,770千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,952,089千円</td> </tr> </table> <p>(対応債務)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">買掛金</td> <td style="text-align: right;">681,681千円</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td style="text-align: right;">420,000千円</td> </tr> <tr> <td>1年以内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">120,000千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">240,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,461,681千円</td> </tr> </table>	建物	140,439千円	土地	844,464千円	投資有価証券	557,415千円	関係会社株式	409,770千円	計	1,952,089千円	買掛金	681,681千円	短期借入金	420,000千円	1年以内返済予定の長期借入金	120,000千円	長期借入金	240,000千円	計	1,461,681千円	<p>※1 借入金等の担保に提供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。</p> <p>(担保提供資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">126,483千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">844,464千円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">560,209千円</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式</td> <td style="text-align: right;">521,304千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,052,461千円</td> </tr> </table> <p>(対応債務)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">買掛金</td> <td style="text-align: right;">1,239,114千円</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td style="text-align: right;">420,000千円</td> </tr> <tr> <td>1年以内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">120,000千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">120,000千円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,899,114千円</td> </tr> </table>	建物	126,483千円	土地	844,464千円	投資有価証券	560,209千円	関係会社株式	521,304千円	計	2,052,461千円	買掛金	1,239,114千円	短期借入金	420,000千円	1年以内返済予定の長期借入金	120,000千円	長期借入金	120,000千円	計	1,899,114千円
建物	140,439千円																																								
土地	844,464千円																																								
投資有価証券	557,415千円																																								
関係会社株式	409,770千円																																								
計	1,952,089千円																																								
買掛金	681,681千円																																								
短期借入金	420,000千円																																								
1年以内返済予定の長期借入金	120,000千円																																								
長期借入金	240,000千円																																								
計	1,461,681千円																																								
建物	126,483千円																																								
土地	844,464千円																																								
投資有価証券	560,209千円																																								
関係会社株式	521,304千円																																								
計	2,052,461千円																																								
買掛金	1,239,114千円																																								
短期借入金	420,000千円																																								
1年以内返済予定の長期借入金	120,000千円																																								
長期借入金	120,000千円																																								
計	1,899,114千円																																								
<p>※2 関係会社に対する資産・負債 区分掲記したもの以外で、各科目に含まれているものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取手形及び売掛金</td> <td style="text-align: right;">165,489千円</td> </tr> <tr> <td>買掛金</td> <td style="text-align: right;">688,767千円</td> </tr> </table> <p>3 保証債務</p> <p>(1) 次の関係会社に対し保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">借入金に対する保証</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">協進石油株式会社</td> <td style="text-align: right;">100,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">日新レジン株式会社</td> <td style="text-align: right;">25,000千円</td> </tr> <tr> <td>営業取引に対する保証</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">日新瓦斯株式会社</td> <td style="text-align: right;">72,915千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">NISTRAD (M) SDN. LTD.</td> <td style="text-align: right;">40,394千円</td> </tr> </table> <p>(2) 従業員の銀行からの借入金（住宅資金銀行提携ローン）に対し保証を行っております。</p> <p style="text-align: right;">1,640千円</p>	受取手形及び売掛金	165,489千円	買掛金	688,767千円	借入金に対する保証		協進石油株式会社	100,000千円	日新レジン株式会社	25,000千円	営業取引に対する保証		日新瓦斯株式会社	72,915千円	NISTRAD (M) SDN. LTD.	40,394千円	<p>※2 関係会社に対する資産・負債 区分掲記したもの以外で、各科目に含まれているものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取手形及び売掛金</td> <td style="text-align: right;">168,233千円</td> </tr> <tr> <td>買掛金</td> <td style="text-align: right;">6,063千円</td> </tr> </table> <p>3 保証債務</p> <p>(1) 次の関係会社に対し保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">借入金に対する保証</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">日新レジン株式会社</td> <td style="text-align: right;">25,000千円</td> </tr> <tr> <td>営業取引に対する保証</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">日新瓦斯株式会社</td> <td style="text-align: right;">173,119千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">NISTRAD (M) SDN. LTD.</td> <td style="text-align: right;">32,185千円</td> </tr> </table> <p>(2) 従業員の銀行からの借入金（住宅資金銀行提携ローン）に対し保証を行っております。</p> <p style="text-align: right;">1,363千円</p>	受取手形及び売掛金	168,233千円	買掛金	6,063千円	借入金に対する保証		日新レジン株式会社	25,000千円	営業取引に対する保証		日新瓦斯株式会社	173,119千円	NISTRAD (M) SDN. LTD.	32,185千円										
受取手形及び売掛金	165,489千円																																								
買掛金	688,767千円																																								
借入金に対する保証																																									
協進石油株式会社	100,000千円																																								
日新レジン株式会社	25,000千円																																								
営業取引に対する保証																																									
日新瓦斯株式会社	72,915千円																																								
NISTRAD (M) SDN. LTD.	40,394千円																																								
受取手形及び売掛金	168,233千円																																								
買掛金	6,063千円																																								
借入金に対する保証																																									
日新レジン株式会社	25,000千円																																								
営業取引に対する保証																																									
日新瓦斯株式会社	173,119千円																																								
NISTRAD (M) SDN. LTD.	32,185千円																																								

## (損益計算書関係)

前事業年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日		当事業年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日	
※1	他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。 販売費及び一般管理費 32,121千円	※1	他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。 販売費及び一般管理費 37,005千円
※2	関係会社との取引 当期商品仕入高 41,455,331千円 受取配当金 55,773千円 仕入割引 29,536千円	※2	関係会社との取引 受取配当金 31,606千円
※3	固定資産売却益 機械及び装置 212千円 車輛運搬具 297千円 <hr/> 計 510千円	※3	—————
※4	固定資産売却損 車輛運搬具 305千円 工具、器具及び備品 391千円 <hr/> 計 696千円	※4	固定資産売却損 車輛運搬具 72千円
※5	固定資産除却損 建物 488千円 建物附属設備 92千円 構築物 341千円 機械及び装置 464千円 工具、器具及び備品 437千円 除却費用 2,093千円 <hr/> 計 3,918千円	※5	固定資産除却損 機械及び装置 631千円 車輛運搬具 90千円 工具、器具及び備品 152千円 電話加入権 3,854千円 長期前払費用 56千円 投資その他の資産のその他 7千円 除却費用 2,716千円 <hr/> 計 7,509千円

前事業年度 自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日				当事業年度 自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日			
※6 減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。				※6 減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。			
用途	場所	種類	減損損失 (千円)	用途	場所	種類	減損損失 (千円)
石油関連 事業	SS (東京都北区 他7ヶ所)	建物	306	石油関連 事業	SS (東京都武蔵村 山市他9ヶ所)	建物	2,286
		機械及び装置	1,471			構築物	189
		工具、器具及び 備品	577			機械及び装置	14,967
		リース資産	1,199			車輛運搬具	95
		電話加入権	811			工具、器具及び 備品	2,700
		ファイナンスリ ース	2,682			電話加入権	914
	計	7,049		計	21,154		
外食事業	ケンタッキーフ ライドチキン店 及びタリーズコ ーヒー店 (横浜市緑区 他1ヶ所)	建物	216	外食事業	タリーズコーヒ ー店 (東京都千代田 区他2ヶ所)	建物	9,699
		工具、器具及び 備品	557			工具、器具及び 備品	1,027
		長期前払費用	500			電話加入権	76
		計	1,274			長期前払費用	435
	計	1,274		計	11,239		
合計			8,324	合計			32,393
<p>当社は、事業区分を基にキャッシュ・フローを生み出す最小単位として1店舗毎・1物件毎を基本単位としてグルーピングしております。</p> <p>上記の事業について、販売マージンの悪化等による事業環境の激変により、継続して損益がマイナスであることから帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（8,324千円）として特別損失に計上しております。</p> <p>石油関連事業及び外食事業の資産グループの回収可能価額については、主として使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.0%で割り引いて算出しております。</p> <p>遊休資産の資産グループの回収可能価額については、主として正味売却価額により測定しており、重要性の高い資産の測定については、不動産鑑定評価基準に基づく評価額によっております。</p>				<p>当社は、事業区分を基にキャッシュ・フローを生み出す最小単位として1店舗毎・1物件毎を基本単位としてグルーピングしております。</p> <p>上記の事業について、販売マージンの悪化等による事業環境の激変により、継続して損益がマイナスであることから帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（32,393千円）として特別損失に計上しております。</p> <p>石油関連事業及び外食事業の資産グループの回収可能価額については、主として使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.0%で割り引いて算出しております。</p> <p>遊休資産の資産グループの回収可能価額については、主として正味売却価額により測定しており、重要性の高い資産の測定については、不動産鑑定評価基準に基づく評価額によっております。</p>			

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式	873,338	—	—	873,338
合計	873,338	—	—	873,338

当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式	873,338	—	—	873,338
合計	873,338	—	—	873,338

## (リース取引関係)

前事業年度 自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日				当事業年度 自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日			
リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移 転外ファイナンス・リース取引 <借主側>				リース取引に関する会計基準適用初年度開始前の所有権移 転外ファイナンス・リース取引 <借主側>			
1 取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累 計額相当額及び期末残高相当額				1 取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累 計額相当額及び期末残高相当額			
	(単位：千円)				(単位：千円)		
	機械及び 装置	工具、器具 及び備品	合計		機械及び 装置	工具、器具 及び備品	合計
取得価額 相当額	169,992	58,788	228,780	取得価額 相当額	98,640	27,594	126,234
減価償却累 計額相当額	104,736	32,046	136,783	減価償却累 計額相当額	62,950	14,502	77,453
減損損失累 計額相当額	38,719	22,258	60,977	減損損失累 計額相当額	24,109	11,532	35,642
期末残高 相当額	26,535	4,483	31,019	期末残高 相当額	11,579	1,558	13,138
(注) 取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等 に占める未経過リース料期末残高の割合が低い ため、「支払利子込み法」により算定しており ます。				(注) 取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等 に占める未経過リース料期末残高の割合が低い ため、「支払利子込み法」により算定しており ます。			
2 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額				2 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額			
1年内			34,088千円	1年内			17,953千円
1年超			22,069千円	1年超			3,997千円
合計			56,158千円	合計			21,951千円
リース資産減損勘定の残高				リース資産減損勘定の残高			
	25,108千円				8,812千円		
(注) 未経過リース料期末残高相当額は、有形固定資 産の期末残高等に占める未経過リース料期末残 高の割合が低いため、「支払利子込み法」によ り算定しております。				(注) 未経過リース料期末残高相当額は、有形固定資 産の期末残高等に占める未経過リース料期末残 高の割合が低いため、「支払利子込み法」によ り算定しております。			
3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償 却費相当額及び減損損失				3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償 却費相当額及び減損損失			
支払リース料			48,841千円	支払リース料			34,058千円
リース資産減損勘定の取崩額			21,597千円	リース資産減損勘定の取崩額			16,295千円
減価償却費相当額			27,243千円	減価償却費相当額			17,762千円
減損損失			2,682千円				
4 減価償却費相当額の算定方法				4 減価償却費相当額の算定方法			
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額 法によっております。				同左			

<p style="text-align: center;">前事業年度</p> <p style="text-align: center;">自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度</p> <p style="text-align: center;">自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日</p>
<p>&lt;貸主側&gt;</p> <p>1 未経過リース料期末残高相当額</p> <p style="padding-left: 2em;">1年以内 <span style="float: right;">30千円</span></p> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、営業債権の期末残高等に占める未経過リース料期末残高及び見積残存価額の残高の割合が低いため、「受取利子込み法」により算定しております。また、上記未経過リース料期末残高相当額は、転貸に係るものであり、借主側の未経過リース料期末残高相当額にほぼ同額が含まれております。</p>	<p style="text-align: center;">—————</p>

(有価証券関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式 (貸借対照表計上額 子会社株式146,723千円、関連会社株式12,060千円) は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式 (貸借対照表計上額 子会社株式146,723千円、関連会社株式12,060千円) は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

前事業年度 平成22年3月31日	当事業年度 平成23年3月31日																																																																																																																																		
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">81,380千円</td></tr> <tr><td>固定資産撤去費用引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">8,015千円</td></tr> <tr><td>減価償却損金算入限度超過額</td><td style="text-align: right;">58,657千円</td></tr> <tr><td>減損損失損金不算入額</td><td style="text-align: right;">257,348千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損損金不算入額</td><td style="text-align: right;">116,200千円</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損損金不算入額</td><td style="text-align: right;">30,428千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">272,296千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">21,841千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金損金算入限度超過額</td><td style="text-align: right;">38,455千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">93,209千円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">977,832千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△327,616千円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right;">650,215千円</td></tr> <tr><td colspan="2">繰延税金負債</td></tr> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">247,415千円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">268,124千円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right;">515,539千円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産純額</td><td style="text-align: right;">134,676千円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産</td><td style="text-align: right;">169,089千円</td></tr> <tr><td>固定負債</td><td style="text-align: right;">34,412千円</td></tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率(調整)</td><td style="text-align: right;">40.69%</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">12.80%</td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">8.65%</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">△9.05%</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△7.99%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">△0.03%</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">45.07%</td></tr> </table>	賞与引当金損金不算入額	81,380千円	固定資産撤去費用引当金損金不算入額	8,015千円	減価償却損金算入限度超過額	58,657千円	減損損失損金不算入額	257,348千円	投資有価証券評価損損金不算入額	116,200千円	ゴルフ会員権評価損損金不算入額	30,428千円	退職給付引当金損金不算入額	272,296千円	役員退職慰労引当金損金不算入額	21,841千円	貸倒引当金損金算入限度超過額	38,455千円	その他	93,209千円	<hr/>		繰延税金資産小計	977,832千円	評価性引当額	△327,616千円	<hr/>		繰延税金資産計	650,215千円	繰延税金負債		固定資産圧縮積立金	247,415千円	その他有価証券評価差額金	268,124千円	<hr/>		繰延税金負債計	515,539千円	<hr/>		繰延税金資産純額	134,676千円	流動資産	169,089千円	固定負債	34,412千円	法定実効税率(調整)	40.69%	住民税均等割	12.80%	交際費等永久に損金に算入されない項目	8.65%	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△9.05%	評価性引当額	△7.99%	その他	△0.03%	<hr/>		税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.07%	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">73,242千円</td></tr> <tr><td>減価償却損金算入限度超過額</td><td style="text-align: right;">58,404千円</td></tr> <tr><td>減損損失損金不算入額</td><td style="text-align: right;">257,070千円</td></tr> <tr><td>投資有価証券評価損損金不算入額</td><td style="text-align: right;">134,267千円</td></tr> <tr><td>ゴルフ会員権評価損損金不算入額</td><td style="text-align: right;">30,428千円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">283,698千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金損金不算入額</td><td style="text-align: right;">21,841千円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金損金算入限度超過額</td><td style="text-align: right;">38,360千円</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">27,038千円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">41,006千円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">965,358千円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△343,581千円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right;">621,776千円</td></tr> <tr><td colspan="2">繰延税金負債</td></tr> <tr><td>固定資産圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">232,973千円</td></tr> <tr><td>資産除去費用</td><td style="text-align: right;">10,879千円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">252,556千円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right;">496,408千円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産純額</td><td style="text-align: right;">125,367千円</td></tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>流動資産</td><td style="text-align: right;">109,985千円</td></tr> <tr><td>固定資産</td><td style="text-align: right;">15,382千円</td></tr> </table> <p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>法定実効税率(調整)</td><td style="text-align: right;">40.69%</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">16.58%</td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">11.22%</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金に算入されない項目</td><td style="text-align: right;">△8.69%</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">7.05%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0.21%</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">67.06%</td></tr> </table>	賞与引当金損金不算入額	73,242千円	減価償却損金算入限度超過額	58,404千円	減損損失損金不算入額	257,070千円	投資有価証券評価損損金不算入額	134,267千円	ゴルフ会員権評価損損金不算入額	30,428千円	退職給付引当金損金不算入額	283,698千円	役員退職慰労引当金損金不算入額	21,841千円	貸倒引当金損金算入限度超過額	38,360千円	資産除去債務	27,038千円	その他	41,006千円	<hr/>		繰延税金資産小計	965,358千円	評価性引当額	△343,581千円	<hr/>		繰延税金資産計	621,776千円	繰延税金負債		固定資産圧縮積立金	232,973千円	資産除去費用	10,879千円	その他有価証券評価差額金	252,556千円	<hr/>		繰延税金負債計	496,408千円	<hr/>		繰延税金資産純額	125,367千円	流動資産	109,985千円	固定資産	15,382千円	法定実効税率(調整)	40.69%	住民税均等割	16.58%	交際費等永久に損金に算入されない項目	11.22%	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△8.69%	評価性引当額	7.05%	その他	0.21%	<hr/>		税効果会計適用後の法人税等の負担率	67.06%
賞与引当金損金不算入額	81,380千円																																																																																																																																		
固定資産撤去費用引当金損金不算入額	8,015千円																																																																																																																																		
減価償却損金算入限度超過額	58,657千円																																																																																																																																		
減損損失損金不算入額	257,348千円																																																																																																																																		
投資有価証券評価損損金不算入額	116,200千円																																																																																																																																		
ゴルフ会員権評価損損金不算入額	30,428千円																																																																																																																																		
退職給付引当金損金不算入額	272,296千円																																																																																																																																		
役員退職慰労引当金損金不算入額	21,841千円																																																																																																																																		
貸倒引当金損金算入限度超過額	38,455千円																																																																																																																																		
その他	93,209千円																																																																																																																																		
<hr/>																																																																																																																																			
繰延税金資産小計	977,832千円																																																																																																																																		
評価性引当額	△327,616千円																																																																																																																																		
<hr/>																																																																																																																																			
繰延税金資産計	650,215千円																																																																																																																																		
繰延税金負債																																																																																																																																			
固定資産圧縮積立金	247,415千円																																																																																																																																		
その他有価証券評価差額金	268,124千円																																																																																																																																		
<hr/>																																																																																																																																			
繰延税金負債計	515,539千円																																																																																																																																		
<hr/>																																																																																																																																			
繰延税金資産純額	134,676千円																																																																																																																																		
流動資産	169,089千円																																																																																																																																		
固定負債	34,412千円																																																																																																																																		
法定実効税率(調整)	40.69%																																																																																																																																		
住民税均等割	12.80%																																																																																																																																		
交際費等永久に損金に算入されない項目	8.65%																																																																																																																																		
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△9.05%																																																																																																																																		
評価性引当額	△7.99%																																																																																																																																		
その他	△0.03%																																																																																																																																		
<hr/>																																																																																																																																			
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.07%																																																																																																																																		
賞与引当金損金不算入額	73,242千円																																																																																																																																		
減価償却損金算入限度超過額	58,404千円																																																																																																																																		
減損損失損金不算入額	257,070千円																																																																																																																																		
投資有価証券評価損損金不算入額	134,267千円																																																																																																																																		
ゴルフ会員権評価損損金不算入額	30,428千円																																																																																																																																		
退職給付引当金損金不算入額	283,698千円																																																																																																																																		
役員退職慰労引当金損金不算入額	21,841千円																																																																																																																																		
貸倒引当金損金算入限度超過額	38,360千円																																																																																																																																		
資産除去債務	27,038千円																																																																																																																																		
その他	41,006千円																																																																																																																																		
<hr/>																																																																																																																																			
繰延税金資産小計	965,358千円																																																																																																																																		
評価性引当額	△343,581千円																																																																																																																																		
<hr/>																																																																																																																																			
繰延税金資産計	621,776千円																																																																																																																																		
繰延税金負債																																																																																																																																			
固定資産圧縮積立金	232,973千円																																																																																																																																		
資産除去費用	10,879千円																																																																																																																																		
その他有価証券評価差額金	252,556千円																																																																																																																																		
<hr/>																																																																																																																																			
繰延税金負債計	496,408千円																																																																																																																																		
<hr/>																																																																																																																																			
繰延税金資産純額	125,367千円																																																																																																																																		
流動資産	109,985千円																																																																																																																																		
固定資産	15,382千円																																																																																																																																		
法定実効税率(調整)	40.69%																																																																																																																																		
住民税均等割	16.58%																																																																																																																																		
交際費等永久に損金に算入されない項目	11.22%																																																																																																																																		
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△8.69%																																																																																																																																		
評価性引当額	7.05%																																																																																																																																		
その他	0.21%																																																																																																																																		
<hr/>																																																																																																																																			
税効果会計適用後の法人税等の負担率	67.06%																																																																																																																																		



(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

資産除去債務のうち貸借対照表上に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

店舗、事務所等の不動産賃貸借契約及び賃貸用不動産の借地契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

店舗、事務所等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等は、使用見込期間を6～18年と見積もり、割引率は当該使用見込期間に見合う国債の利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

賃貸用不動産の借地契約に伴う原状回復義務等は、使用見込期間を当該契約期間に応じて45年と見積もり、割引率は2.308%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

(単位：千円)

期首残高(注)	65,234
時の経過による調整額	1,215
期末残高	<u>66,449</u>

(注) 当事業年度より「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

## (1株当たり情報)

項目	前事業年度		当事業年度	
	自	平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	自	平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
1株当たり純資産額		2,243.70円		2,231.42円
1株当たり当期純利益		24.71円		11.10円
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後1株当たり当期純利益 については、調整計算の結果、1株当 たり当期純利益が希薄化しないため記 載していません。		潜在株式調整後1株当たり当期純利益 については、調整計算の結果、1株当 たり当期純利益が希薄化しないため記 載していません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前事業年度		当事業年度	
	自	平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	自	平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
1株当たり当期純利益金額				
当期純利益 (千円)		166,190		74,658
普通株主に帰属しない金額 (千円)		—		—
普通株式に係る当期純利益 (千円)		166,190		74,658
普通株式の期中平均株式数 (株)		6,726,662		6,726,662
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整 後1株当たり当期純利益の算定に含めなか った潜在株式の概要		平成17年6月29日定時株主総会 決議ストックオプション (新株予約権 217個) 普通株式 217千株		平成17年6月29日定時株主総会 決議ストックオプション (新株予約権 217個) 普通株式 217千株

## (重要な後発事象)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
該当事項はありません。	該当事項はありません。

## ④【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

銘柄		株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	その他有価証券	株式会社日新	4,099,000	918,176
		キッセイ薬品工業株式会社	129,000	201,240
		日本精化株式会社	286,000	149,006
		ユシロ化学工業株式会社	101,575	113,764
		株式会社三井住友フィナンシャルグループ	30,900	79,907
		株式会社ユーシン	89,000	57,405
		常磐共同火力株式会社	100,000	50,000
		株式会社EHS	1,250	50,000
		株式会社クボタ	46,418	36,392
		東京電力株式会社	70,970	33,072
	その他38銘柄	1,460,190	406,985	
計		6,414,303	2,095,948	

## 【その他】

種類及び銘柄		投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	その他有価証券	(投資信託受益証券)		
		不動産投資信託受益証券	29	3,047
		証券投資信託受益証券 (14銘柄)	42,897	229,728
計		42,926	232,776	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	5,499,192	392,936	11,986 (11,986)	5,880,142	3,079,554	146,706	2,800,588
構築物	422,110	32,139	189 (189)	454,060	332,238	20,700	121,821
機械及び装置	810,398	75,648	35,599 (14,967)	850,447	672,100	53,406	178,347
車両運搬具	70,437	4,593	6,056 (95)	68,974	57,280	6,466	11,693
工具、器具及び備品	320,372	32,395	10,125 (3,727)	342,642	281,036	33,626	61,605
土地	4,616,152	680,146	— (—)	5,296,298	—	—	5,296,298
リース資産	12,420	—	— (—)	12,420	8,674	4,010	3,746
建設仮勘定	3,450	285,197	288,647 (—)	—	—	—	—
有形固定資産計	11,754,534	1,503,057	352,605 (30,966)	12,904,986	4,430,886	264,916	8,474,100
無形固定資産							
借地権	105,504	—	— (—)	105,504	—	—	105,504
ソフトウェア	18,206	16,601	871 (—)	33,936	10,983	5,252	22,953
電話加入権	25,151	—	4,845 (991)	20,306	—	—	20,306
無形固定資産計	148,862	16,601	5,716 (991)	159,747	10,983	5,252	148,764
長期前払費用	26,768	12,728	8,432 (435)	31,064	12,509	5,463	18,555

(注) 1 「当期減少額」欄の ( ) 内は、内書で減損損失の計上額であります。

2 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建 物	D. Dセルフ本郷台南SS	62,082千円
	モデュロール三軒茶屋Ⅱ (賃貸マンション)	131,273千円
	ドミール砦 (賃貸マンション)	162,742千円
構 築 物	D. Dセルフ本郷台南SS	25,347千円
	ドミール砦 (賃貸マンション)	6,231千円
機械及び装置	D. Dセルフ本郷台南SS	42,443千円
工具、器具及び備品	D. Dセルフ本郷台南SS	21,134千円
土 地	モデュロール三軒茶屋Ⅱ (賃貸マンション)	270,751千円
	長久手SS (仮称)	401,128千円

3 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置	D. D保土ヶ谷SS	6,445千円
--------	------------	---------

## 【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	147,710	29,380	14,892	40,707	121,490
賞与引当金	200,000	180,000	200,000	—	180,000
役員賞与引当金	11,000	11,500	11,000	—	11,500
固定資産撤去費用引当金	19,700	—	19,301	398	—
役員退職慰労引当金	53,676	—	—	—	53,676

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額の「その他」は、一般債権に係る引当金の洗替えによる戻入額であります。

2. 固定資産撤去費用引当金の当期減少額その他は、撤去作業が完了したことによる戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

a 資産の部

イ 現金及び預金

区分	金額 (千円)
現金	550,082
預金の種類	
当座預金	547,054
普通預金	81,121
小計	628,175
合計	1,178,257

ロ 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
村上化学株式会社	145,370
株式会社三ツ星電器製作所	85,798
サーモ株式会社	76,378
ペルノックス株式会社	49,854
ポリコール興業株式会社	46,957
その他	467,361
合計	871,721

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額 (千円)
平成23年4月	332,662
"    5月	229,454
"    6月	161,290
"    7月	125,971
"    8月	21,211
"    9月	1,130
合計	871,721

ハ 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
中部電力生活協同組合	318,600
昭和油槽船株式会社	251,267
東電生活協同組合	239,116
株式会社クボタ	231,879
ユシロ化学工業株式会社	223,652
その他	5,738,738
合計	7,003,255

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)}$	$\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
6,461,416	54,355,906	53,814,067	7,003,255	88.5	45.2

(注) 上記金額には消費税等が含まれております。

ニ 商品

品目	金額 (千円)
ガソリン	214,870
灯油	23,566
軽油	31,097
潤滑油	21,824
化成品	29,991
その他	99,301
合計	420,652

b 負債の部  
 イ 支払手形  
 (イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
神奈川県高津県税事務所	62,796
帝中株式会社	33,928
群馬県西部県税事務所	20,331
有限会社共一化成	14,088
石井化学産業株式会社	5,160
その他	4,251
合計	140,557

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額 (千円)
平成23年 4月	33,678
"    5月	81,020
"    6月	25,253
"    7月	603
合計	140,557

ロ 買掛金

相手先	金額 (千円)
J X日鉱日石エネルギー株式会社	1,239,114
丸紅ブラックス株式会社	81,741
ニッソービバレッジ株式会社	49,286
三菱化学株式会社	47,885
株式会社鈴木商館	32,845
その他	409,390
合計	1,860,263



ハ 社債

区分	金額（千円）
第16回無担保社債	100,000
第17回無担保社債	100,000
第18回無担保社債	20,000
第19回無担保社債	100,000
第20回無担保社債	80,000
第21回無担保社債	100,000
第22回無担保社債	100,000
第23回無担保社債	140,000
第24回無担保社債	300,000
第25回無担保社債	100,000
第26回無担保社債	66,000
合計	1,206,000

（注）発行年月、利率等については、「第5経理の状況」「1連結財務諸表等」「（1）連結財務諸表」「⑤連結附属明細表」の「社債の明細表」に記載しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・売渡し 取扱場所  株主名簿管理人  取次所 買取・売渡 手数料	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店  (特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社  —  株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL <a href="http://www.nissin-shoji.co.jp">http://www.nissin-shoji.co.jp</a>
株主に対する特典	株主優待制度 (1) 対象株主 毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上所有の株主 (2) 優待内容 3,000円相当の優待品

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第66期）（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）平成22年6月30日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度（第66期）（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）平成22年6月30日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第67期第1四半期）（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）平成22年8月10日関東財務局長に提出

（第67期第2四半期）（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）平成22年11月9日関東財務局長に提出

（第67期第3四半期）（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）平成23年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成22年7月1日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

平成22年7月1日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）に基づく臨時報告書であります。

平成23年5月13日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（代表取締役の異動）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月17日

日新商事株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 孝郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐々田 博信 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日新商事株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日新商事株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日新商事株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、日新商事株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年6月16日

日新商事株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 孝郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐々田 博信 印

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日新商事株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日新商事株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日新商事株式会社の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、日新商事株式会社が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成22年6月17日

日新商事株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 孝郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐々田 博信 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日新商事株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第66期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日新商事株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。



# 独立監査人の監査報告書

平成23年6月16日

日新商事株式会社

取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 孝郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐々田 博信 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日新商事株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第67期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日新商事株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- ※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月30日
【会社名】	日新商事株式会社
【英訳名】	NISSIN SHOJI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 筒井 博昭
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都港区芝浦一丁目14番5号
【縦覧に供する場所】	日新商事株式会社 横浜支店 (神奈川県横浜市神奈川区金港町5番地32) 日新商事株式会社 大阪支店 (大阪府堺市堺区新在家町東一丁目1番28号) 日新商事株式会社 名古屋支店 (愛知県名古屋市千種区内山三丁目3番9号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長である筒井 博昭は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会が公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して、財務報告に係る内部統制を整備し、運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成23年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠いたしました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。なお、連結子会社3社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している4事業部門（直営、卸、直需部門及び産業資材部門の一部）傘下事業拠点を「重要な事業拠点」といたしました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として「売上高」「売掛金」「棚卸資産」に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点における当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4 【付記事項】

財務報告に係る内部統制の有効性の評価に重要な影響を及ぼす後発事象等はありません。

## 5 【特記事項】

特記すべき事項はありません。